

2021年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



目次

5301000	基本製図	安藤 淳一	1 Q	1
5302000	建築設計製図	佐々木 哲之	3 Q	3
5303100	建築材料	小笠原 健	2 Q	5
5304000	建築学理論	長森 正	3 Q	7
5306100	建築環境	佐々木 哲之	1 Q	9
5307000	建築構造力学	長森 正	2 Q	11
5308000	建築構造力学	長森 正	4 Q	13
5309000	建築法規	佐藤 善太郎	1 Q	15
5310000	福祉環境計画論	佐々木 哲之	4 Q	17
5311000	建築設備	君 興治	2 Q	19
5312000	建築施工	小笠原 健	2 Q	21
7503000	建築設計演習	佐藤 善太郎	前期	23
7506000	建築史	木下 泰男	3 Q	25
7510000	建築設計演習	君 興治	前期	27
7514000	建築設計演習	日野 桂子	後期	29
7516000	建築計画	安藤 淳一	前期	31
7520100	建築材料実験	長森 正	前期	33
7521000	施工管理技士演習	小笠原 健	前期	35
7521100	施工管理技士演習	小笠原 健	後期	37
7521200	建築士演習	佐藤 善太郎	前期	39
7521300	建築士演習	佐藤 善太郎	前期	41
7521400	建築士演習	佐藤 善太郎	後期	43
7521500	建築士演習	佐藤 善太郎	後期	45
7525098	都市計画	安藤 淳一	後期集中	47
7525099	都市計画	安藤 淳一	後期集中	49
7531100	図学(建築図学を含む)	長森 正	前期	51
7535000	プレゼンテーション	佐藤 善太郎	前期集中	53
7536000	プレゼンテーション	佐藤 善太郎	後期集中	55
7539100	エッセイ	安藤 淳一	後期	57
7541000	建築表現	安藤 淳一	前期	59
7542000	アクションプラン	小笠原 健	前期	61
7543000	建築表現	安藤 淳一	後期	63
7544000	アクションプラン	伊藤 裕康	後期	65
7545001	建築計画	安藤 淳一	後期	67
7550000	建築法規	佐藤 善太郎	後期	69
7553000	CAD演習	佐藤 善太郎	前期	71
7555000	CAD演習	佐藤 善太郎	後期	73
7556000	応用物理	伊藤 裕康	2 Q	75
7557000	応用数学	横山 哲也	4 Q	77
7557500	建築士のための基礎数学	横山 哲也	3 Q	79
7559000	くらしと景観	伊藤 裕康	4 Q	81
7560000	デザイナ概論(A)	梅田 真紀	前期	83
7566000	建築表現	安藤 淳一	前期	85
7568000	建築表現	安藤 淳一	後期	87
7569000	アクションプラン	佐々木 哲之	前期	89
7570000	アクションプラン	佐々木 哲之	後期	91
7571000	建築設計演習	君 興治	後期	93
7572000	北国の建築と住まい	安藤 淳一	1 Q	95
7573100	建築環境	伊藤 裕康	3 Q	97
7575000	建築構造力学	小笠原 健	1 Q	99
7580000	鉄筋コンクリート構造	長森 正	2 Q	101
7581000	鋼構造	長森 正	3 Q	103
7583000	建築生産	小笠原 健	3 Q	105
7585000	空間計画論	安藤 淳一	後期集中	107
7586000	建築法規	佐藤 善太郎	2 Q	109
7588000	建築法規	佐藤 善太郎	4 Q	111
7589000	建築の職能と倫理	安藤 淳一	2 Q	113
7590000	CAD演習	佐藤 善太郎	前期	115
7591000	住空間計画	安藤 淳一	3 Q	117
7593002	職業指導(A)	横山 哲也	4 Q	119
7597000	建築表現	安藤 淳一	前期	121
7598000	アクションプラン	君 興治	前期	123
7599000	アクションプラン	君 興治	後期	125
7600000	建築設計演習	佐藤 善太郎	前期	127
7600100	建築設計演習	安藤 淳一	後期	129
7603000	建築設備	君 興治	2 Q	131
7604000	建築積算	佐々木 哲之	2 Q	133
7607000	測量学	長森 正	1 Q	135
7612000	アクションプラン	佐藤 善太郎	前期	137
7613000	アクションプラン	佐藤 善太郎	後期	139
7614000	建築学特講(隔週A)	柿沼 博彦	後期	141
7615000	建築学特講(隔週B)	柿沼 博彦	後期	143
7623061	建築研究	安藤 淳一	前期集中	145
7623062	建築研究	伊藤 裕康	前期集中	147
7623063	建築研究	佐藤 善太郎	前期集中	149

7623064	建築研究	佐々木 哲之	前期集中	...	151
7623065	建築研究	横山 哲也	前期集中	...	153
7623066	建築研究	長森 正	前期集中	...	155
7623067	建築研究	小笠原 健	前期集中	...	157
7623068	建築研究	君 興治	前期集中	...	159
7624061	建築研究	安藤 淳一	後期集中	...	161
7624062	建築研究	伊藤 裕康	後期集中	...	163
7624063	建築研究	佐藤 善太郎	後期集中	...	165
7624064	建築研究	佐々木 哲之	後期集中	...	167
7624065	建築研究	横山 哲也	後期集中	...	169
7624066	建築研究	長森 正	後期集中	...	171
7624067	建築研究	小笠原 健	後期集中	...	173
7624068	建築研究	君 興治	後期集中	...	175
7625061	建築研究	安藤 淳一	前期集中	...	177
7625062	建築研究	伊藤 裕康	前期集中	...	179
7625063	建築研究	佐藤 善太郎	前期集中	...	181
7625064	建築研究	佐々木 哲之	前期集中	...	183
7625065	建築研究	横山 哲也	前期集中	...	185
7625066	建築研究	長森 正	前期集中	...	187
7625067	建築研究	小笠原 健	前期集中	...	189
7625068	建築研究	君 興治	前期集中	...	191
7626061	建築研究	安藤 淳一	後期集中	...	193
7626062	建築研究	伊藤 裕康	後期集中	...	195
7626063	建築研究	佐藤 善太郎	後期集中	...	197
7626064	建築研究	佐々木 哲之	後期集中	...	199
7626065	建築研究	横山 哲也	後期集中	...	201
7626066	建築研究	長森 正	後期集中	...	203
7626067	建築研究	小笠原 健	後期集中	...	205
7626068	建築研究	君 興治	後期集中	...	207
7627061	卒業研究	安藤 淳一	後期集中	...	209
7627062	卒業研究	伊藤 裕康	後期集中	...	211
7627063	卒業研究	佐藤 善太郎	後期集中	...	213
7627064	卒業研究	佐々木 哲之	後期集中	...	215
7627065	卒業研究	横山 哲也	後期集中	...	217
7627066	卒業研究	長森 正	後期集中	...	219
7627067	卒業研究	小笠原 健	後期集中	...	221
7627068	卒業研究	君 興治	後期集中	...	223

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング: APT311001)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
実技形式の授業であり、建築製図に必要な道具とその使い方、手書きによる製図法の基本から木造建築の基図面作成の手順や表現内容を理解する。												
授業の位置づけ												
建築学科のDP「1(2)」、「2(4)」に対応する。												
到達目標												
図面作成の基礎的能力、木造建築の基本図面の理解と作図方法ならびに期限内課題提出のための基本的自己管理能力を習得する。												
授業全体の内容と概要												
課題内容は、毎回授業時間内に完成できる程度のものとしている。ただし時間内に完成できない場合は、演習室で引き続き作業を進めるか自宅での作業とし、次回授業開始時まで完成させること。												
授業の方法												
建築製図の基礎能力を身につけるためのカリキュラムであるため、毎回課題のテーマがありその内容に従って授業が進められる。課題内容は配布資料と、当日板書した情報をもとに詳細な説明をおこなう。作成した図面については、提出ごとにチェックをし、不備・誤りの部分についての指摘をおこない、手直し後に再提出する。なお、指導教員がSAの学生とともに、一人ひとりの理解度や進捗状況を確認しながら授業を進める。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
実技科目であること、建築製図能力養成の最も根幹となる授業であるため、欠席せず毎回課題の説明を聞き期限内に課題提出ができるよう努めなければならない。												
資格指定科目												
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、積極的に基礎技術習得に取り組みこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図道具を自己で事前に準備し、それを十分に使いこなせる。	道具をすべて事前に準備し、正確に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、おおむね使いこなすことができた。	道具を準備できない、使いこなすことができなかった。
木造建築を理解した上で正確な図面を作成する。	すべての点で正確な図面作成ができ、自分で誤りを見つけることができた。	すべての点で正確な図面作成ができた。	正確な図面を作成できた。	おおむね図面は作成できた。	理解不足のため、図面を作成することができなかった。
製図課題をスケジュールに則り提出期限内に作成・完了する。	すべての課題を余裕をもって期限内に作成・完了することができた。	すべての課題を期限内に作成・完了することができた。	ほとんどの課題を期限内に作成・完了することができた。	おおむね期限内に課題を作成・完了することができた。	すべての課題が期限内に作成・完了することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト設計資料集 住居』	日本建築学会	丸善	2006	4621076884	なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング: APT311001)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業の進め方、授業スケジュールの解説	シラバスの事前確認(90分)	授業を受ける際の注意事項と製図道具の確認(90分)
2	ガイダンス(製図道具及び製図台の解説)	シラバスの確認(90分)	際の注意事項と製図道具の確認(90分)
3	線の練習1-1 実線・破線の種類	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
4	線の練習1-2 実線・破線の描き分け	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
5	線の練習2-1 線の太さと強さの意味	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
6	線の練習2-2 線の太さと強さの描き分け	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
7	建築記号1-1(文字・数字の表記方法)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
8	建築記号1-2(階段の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
9	建築記号2-1(壁・開口部の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
10	建築記号2-2(平面図の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
11	木造住宅模写1-1(配置図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
12	木造住宅模写1-2(配置図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
13	木造住宅模写2-1(平面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
14	木造住宅模写2-2(平面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
15	木造住宅模写3-1(断面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
16	木造住宅模写3-2(断面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	木造住宅模写4-1(立面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
18	木造住宅模写4-2(立面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
19	木造住宅模写5-1(1階平面図 柱の割り付け)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
20	木造住宅模写5-2(1階平面図 詳細表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
21	木造住宅模写5-3(1階平面図 外構の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
22	木造住宅模写6-1(2階平面図 柱の割り付け)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
23	木造住宅模写6-2(2階平面図 詳細表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
24	木造住宅模写7-1(エスキース図面の解説)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
25	木造住宅模写7-2(柱の割付の考え方)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
26	木造住宅模写7-3(建具の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
27	木造住宅模写7-4(設備の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
28	木造住宅模写7-5(家具の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
29	木造住宅模写7-6(外構の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
30	木造住宅模写7-7(図面の確認)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
31	講評会1(提出課題の講評と解説)	制作課題の提出状況の確認(90分)	建築図面の理解の再確認(90分)
32	講評会2(提出課題の講評と解説)	制作課題の提出状況の確認(90分)	建築図面の理解の再確認と振り返り(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング: APT311002)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		

概要

履修目標
積雪寒冷地における木造と鉄筋コンクリート造について、技術と製図の基本を修得することを目標としている。木造では軸組構法が主となるが、構造・構法の考え方や高断熱・高気密の建築技術を学ぶ。鉄筋コンクリート構造では、壁構造とラーメン構造の構造計画、外壁・地下室・屋上防水等の詳細図、積雪寒冷地の外装計画等を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
時間内に課題を完成させることができ、期日を守ることの重要性を身に付ける。木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨構造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って、正しく表現できる。

授業全体の内容と概要
木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨構造の各種設計図の表現方法を学ぶ。課題は授業計画に従い、毎週提示され授業時間内に完成させ提出することを原則とする。課題により次回の提出を認めている。課題は採点の後返却される。

授業の方法
課題解説、製図、およびそれらの指導は、すべて製図室にて行われる。したがって、指定された製図道具を各自必ず持参し、授業に臨むこととなる。また、課題ごとに配布する資料と板書による説明をし、そのうち製図を始める。再提出や追加課題に備えて、自宅に製図板、製図道具等を揃えておくことが不可欠である。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
当日の製図課題の説明は授業開始直後に行うので、遅れてきた場合の説明は他の学生が製図に着手した後となるので、遅刻はかなりのハンディキャップとなるので注意をする。課題は全課題提出が原則である。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻4回で欠席1回とみなすので注意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
2コマ連続実技なので、単位認定に必要な最低出席回数は20回以上、かつ全課題提出とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	10%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製図の基本技術について寸法とスケール 図面の表示記号 線の種類と描き方 建築図面の理解 空間の理解</td> <td>- をすべて理解し表現できていた。</td> <td>- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。</td> <td>- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。</td> <td>- について理解できていたが表現が部分的に不十分であった。</td> <td>- について理解、表現とも不十分であった。</td> </tr> <tr> <td>木造軸組工法の各種図面において、柱の位置、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ</td> <td>- をすべて理解し表現できていた。</td> <td>- をすべて理解し表現できていた。しかし、 は理解できていたが表現が不十分であった。</td> <td>- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。</td> <td>- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。</td> <td>- について理解、表現とも不十分であった。</td> </tr> <tr> <td>鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において、柱の寸法、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ</td> <td>- をすべて理解し表現できていた。</td> <td>- をすべて理解し表現できていた。しかし、 は理解できていたが表現が不十分であった。</td> <td>- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。</td> <td>- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。</td> <td>- について理解、表現とも不十分であった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	製図の基本技術について寸法とスケール 図面の表示記号 線の種類と描き方 建築図面の理解 空間の理解	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- について理解できていたが表現が部分的に不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。	木造軸組工法の各種図面において、柱の位置、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。しかし、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。	鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において、柱の寸法、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。しかし、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
製図の基本技術について寸法とスケール 図面の表示記号 線の種類と描き方 建築図面の理解 空間の理解	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- について理解できていたが表現が部分的に不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。																								
木造軸組工法の各種図面において、柱の位置、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。しかし、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。																								
鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において、柱の寸法、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。しかし、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、 は理解できていたが表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『コンパクト建築設計資料集成』</td> <td>日本建築学会編</td> <td>丸善株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会編	丸善株式会社				2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会編	丸善株式会社																																							
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング: APT311002)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス1 授業計画の説明と履修指導	シラバスにより次回の部分を予習すること(45分)	
2	ガイダンス2 製図のルール, 作図方法		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
3	寒冷地の木造建築 - 1a 平面図(柱の配置, 軸組構法)	次回の製図内容を予習すること(45分)	
4	寒冷地の木造建築 - 1b 平面図(壁の断熱と大壁・真壁)		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
5	寒冷地の木造建築 - 2a 展開図の描き方, 建具表の表現	次回の製図内容を予習すること(45分)	
6	寒冷地の木造建築 - 2b 展開図と建具表の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
7	寒冷地の木造建築 - 3a 基礎の断熱, 寒冷地の1階床組	次回の製図内容を予習すること(45分)	
8	寒冷地の木造建築 - 3b 基礎伏図と1階床伏図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
9	寒冷地の木造建築 - 4a 2階荷重の伝播, 小屋組の造り方	次回の製図内容を予習すること(45分)	
10	寒冷地の木造建築 - 4b 2階床伏図と小屋伏図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
11	寒冷地の木造建築 - 5a 矩計図に表現される事項	次回の製図内容を予習すること(45分)	
12	寒冷地の木造建築 - 5b 矩計図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
13	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 1a 柱スパンと柱の断面寸法, 外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること(45分)	
14	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 1b 平面図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
15	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 2a 断面の考え方, 表現方法	次回の製図内容を予習すること(45分)	
16	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 2b 断面図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 3a 梁・スラブと階高, 断熱方法, 天井の構法	次回の製図内容を予習すること(45分)	
18	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 3b 矩計図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
19	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 4a 防水(屋上防水, 地下室の防水と断熱)	次回の製図内容を予習すること(45分)	
20	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 4b 防水(屋上防水, 地下室の防水と断熱)		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
21	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 5a 外装 コンクリート打放し, カーテンウォール	次回の製図内容を予習すること(45分)	
22	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 5b 立面図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
23	鉄筋コンクリート造壁構造 - 1a 壁式構造とは耐力壁の壁量と配置	次回の製図内容を予習すること(45分)	
24	鉄筋コンクリート造壁構造 - 1b 平面図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
25	鉄筋コンクリート造壁構造 - 2a 断熱材と開口部と納まり	次回の製図内容を予習すること(45分)	
26	鉄筋コンクリート造壁構造 - 2b 平面詳細図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
27	鉄骨構造 - 1a 柱スパンと柱の断面寸法, 外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること(45分)	
28	鉄骨構造 - 1b 平面図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
29	鉄骨構造 - 2a 床・屋根スラブの造り方, 壁下地と仕上げ材 次回の製図内容を予習すること(90分)	次回の製図内容を予習すること(45分)	
30	鉄骨構造 - 2b 部分詳細図の作図		製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
31	講評会-1	講評会にむけて, 今までの製図課題を予習すること(45分)	
32	講評会-2	製図内容を復習し, 課題図面を見直すこと(45分)	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 (科目ナンバリング: BSM311013)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
建築材料の具体的な名称や機能を理解し、材料の使用方法を修得することで、今後の専門科目を学ぶために役立つ基礎知識を養う。												
授業の位置づけ												
建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。												
到達目標												
建築学科の専門科目に向けての基礎的知識を修得し、専門用語の理解とその機能を理解できる。また、建築士試験科目を見据えた基礎的学力を修得できる。												
授業全体の内容と概要												
構造材料では主に木材・金属・コンクリート等を中心に基本的な特性、品質、規格、形状等について修得し、仕上げ材料などについても理解できるように授業を実施する。												
授業の方法												
授業形式は板書中心に実施するが、その個々の材料についての特徴などを説明していく。また、状況によってはイラストや写真などの資料を提供し、各材料のイメージしやすくし、解説する。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>○ その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
指定テキストと配布資料を必ず持参すること。												
資格指定科目												
「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上とし、満たさない場合は履修を中止する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築材料」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『絵とき建築材料 改訂2版』	廣瀬幸男・早川潤・赤石辰夫・遠藤真弘・廣瀬妙子(共著)	オーム社	2017		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 (科目ナンバリング: BSM311013)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	木材 (木材の特徴・種類・性質)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	木材 (木材の強度・木取り・規格・等級)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	木材 (集成材・合板・木質ボード)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	コンクリート (コンクリートの特徴・種類・性質)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	コンクリート (コンクリートの施工と耐久性・セメント・骨材)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	コンクリート (混和材料・コンクリート製品・セメント製品)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	鋼材 (鋼材の特徴・加工と腐食・種類)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	鋼材 (鋼材の接合・ステンレスとアルミニウム・構造用金物)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	仕上げ材 (石材・ガラス・タイル・レンガ)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	仕上げ材 (外装材・屋根・外壁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	仕上げ材 (内装材・天井・壁・床)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	機能性材料(防水材料・防火材料・断熱材)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	設備機器等	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	高齢者対応とバリアフリー	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築システム論 (科目ナンバリング: BSM311012)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)		研究室所在	アトリエ棟 1階	
単位数	2	(単位認定責任者: 長森 正)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

概要

履修目標	建築構造物の使用材料、荷重外力・構造原理、建築構造形式などを修得する。												
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」、「2(4)」に対応する。												
到達目標	代表的な建築構造物の特徴、部位・部材の名称や役割などを説明できる。												
授業全体の内容と概要	建築構造物の一般構造から木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造など各種代表的な構造について講義する。基本的な建築構造物の専門用語や構造形式が理解できるようになることを目標とする。												
授業の方法	授業はパワーポイント及び配布資料などを利用して、建築構造のDVD視聴なども含めて講義形式で行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	配布資料により講義を進めるので、休まず出席すること。												
資格指定科目	教職課程(工業)必修科目、建築士試験受験資格課程必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の部位・部材の名称	全ての構造物の部位・部材名称を理解し、他の人に説明できた。	全ての構造物の部位・部材名称を理解できた。	基本的な構造物に対して名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できなかった。
建築物各構造の特徴・構造原理	構造物の特徴・構造原理が全て理解でき、他の人に説明できた。	構造物の特徴・構造原理が全て理解できた。	基本的な構造物の特徴・構造原理が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できなかった。
建築構造形式の理解力	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を図・表などを示しながら記述することができた。	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を記述することができた。	建築構造形式の内容を理解し、基本的な内容を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図解テキスト 建築構造』	建築構造システム研究会編	彰国社			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築システム論 (科目ナンバリング: BSM311012)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 木造系の構造システム	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	コンクリート系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
3	鋼材系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
4	膜財系・基礎・制震の構造	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	(専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分))
5	荷重系の種類	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
6	木造系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
7	コンクリート系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
8	鉄筋・鉄骨と部材	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
9	鉄筋コンクリート系(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
10	鉄筋コンクリート系(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
11	鉄骨構造の詳細(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
12	鉄骨構造の詳細(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
13	鉄骨構造の接合(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
14	鉄骨構造の接合(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
15	鉄骨構造の接合(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います	授業内容全体について資料を整理して、試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN313008)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>建築の目的はその発生の当初から、外界の厳しい自然環境から人間生活を護ることにあり、快適な室内環境の実現には建築技術の長い発展の不断の目標である。そのために空気、熱、光、音の基本性質を学習し、それらが建築環境にどのように関わるかを理解・修得する。</p>
--

<p>授業の位置づけ</p> <p>建築学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(4)」に対応する。</p>
--

<p>到達目標</p> <p>空気、熱、光、音が建築物に与える影響を知り、建築物の配置計画、平面計画を実施する際の建築計画の基本となる知識として身に付け、応用できる。</p>
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>自然(外部)環境が室内環境に及ぼす要因と空気環境の基準を学ぶ。また、自然環境が建築物に与える功罪を知る手がかりとして日照と日射の基礎的取扱いからその建築計画上の方法の理解。採光計画における昼光率、設計用天空照度、照度の計算そして、換気と通風の理論、及びその応用など大別して講義展開をする。</p>
--

<p>授業の方法</p> <p>テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各単元ごとに課題し、それはレポート、小テストの形式とする。課題返却後、解説をする。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p>履修上の注意事項</p> <p>授業成果の確認のため単元ごとに小テストを行うので、講義にはテキスト、過去分のノート、電卓は必ず持参すること。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。</p>
--

<p>資格指定科目</p> <p>「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目</p>
--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	10%	10%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得している。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
光環境に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれではな	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
採光と照明に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
通風と換気に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新 建築環境工学』	田中俊六	井上書院	2018	978-4-7530-1757-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN313008)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 建築環境の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	快適環境-1 人体生理と室内環境	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
3	快適環境-2 空気環境の基準	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
4	快適環境-3 温熱環境 絶対湿度と相対湿度 有効温度	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
5	光環境-1 日照と住環境	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
6	光環境-2 日照と日射 昼光照度と日射量、日照と建築計画	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
7	光環境-3 日影曲線、日影図、日影時間、日影の検討方法	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
8	光環境-4 日射と日照調整	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
9	採光と照明-1 測光量とその単位 照度, 光束, 輝度	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
10	採光と照明-2 昼光光源 設計用天空照度 照度の計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
11	採光と照明-3 昼光率とその計算法	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
12	換気と通気-1 人体と必要換気量 用途に応じた必要換気量と換気方式	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
13	換気と通気-2 室内通風 通風の現象, 通風による温熱効果	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
14	換気と通気-3 圧力差と換気量 温度差による換気, 換気計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
15	まとめ	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312010)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)		研究室所在	アトリエ棟1階	
単位数	2	(単位認定責任者: 長森 正)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

概要

履修目標
建築技術者に必要な建築構造力学のうち、力と構造物の関係・力の釣り合い・静定構造物の特徴や解法を学習する。物理学や数学をベースとして、構造計算の基礎知識を修得し、それらに応用する能力を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」「2(4)」に対応する。

到達目標
建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。力の釣り合いを理解し、静定ばり・静定ラーメンなどの支点反力・応力を計算して断面力図を描くことができる。建築施工管理技士・建築士の構造力学分野の問題を解くことができる。

授業全体の内容と概要
取扱う内容は静力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形等である。力の表示・合成・分解・釣り合い等から構造物の荷重・反力、応力などの事項を講義する。

授業の方法
教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習(レポート)を出題する。参考資料無しで演習が自力で解けるように講義する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要。講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復練習)が必要である。

資格指定科目
教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	30%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
力に関する基礎知識	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができ、他の人に説明できた。	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができた。	複数の力のベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができなかった。
静定構造物に生じる力学的諸現象	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、他の人に説明できた。	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、説明できた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	2級建築士問題(構造部門)を解答でき、他の人に説明できた。	2級建築士問題(構造部門)を解答できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312010)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 構造力学に必要な算術計算	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、演習問題を復習する(90分)
2	力に関する基礎知識 (1)力・力のモーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	力に関する基礎知識 (2)合力・分布荷重	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	力の釣り合い	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	構造物(荷重)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	構造物(反力)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	部材の生じる力 (1)(基礎)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	部材の生じる力 (2)(単純梁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	部材の生じる力 (3)(片持梁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	部材の生じる力 (4)(せん断力図・曲げモーメント図)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	荷重の重ね合わせ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	静定ラーメン(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	静定ラーメン(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	静定ラーメン(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312011)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

概要

履修目標
建築構造力学 の内容を基礎にして、静定トラス・断面の力学特性・応力度・ひずみ度・部材の設計など項目について特徴や解法を学習する。物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し、それらを用いる能力を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。弾性状態における応力とひずみの関係を説明でき、それらを計算できる。断面の力学特性を理解し、断面量を計算できる。建築施工管理技士及び建築士程度の問題が解けるようになる。

授業全体の内容と概要
内容は静定力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形などである。静定トラスの軸力・部材断面の諸量・ひずみ度・応力度・など事項について演習問題を解きながら講義する。

授業の方法
教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習(レポート)を出題する。参考資料無しで演習を解けるように説明する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要。講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復練習)が必要である。

資格指定科目
教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
静定トラス・断面諸量の知識	様々なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができ、他人に説明できた。	様々なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができ、他人に説明できた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができなかった。
ひずみ度・応力度・部材設計	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算でき、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができ、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	2級建築士問題(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	2級建築士問題(構造部門)を解答できた。	建築施工管理技士(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	建築施工管理技士(構造部門)を解答できた。	建築施工管理技士問題(構造部門)を解答できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312011)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 静定トラス(1)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、演習問題を復習する(90分)
2	静定トラス(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	静定トラス(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	断面の力学的特性(1) 図心	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	断面の力学的特性(2) 断面1次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	断面の力学的特性(3) 断面2次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	断面の力学的特性(4) 断面係数	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	断面の力学的特性(5) 断面2次半径	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	ひずみ度と応力度(1) ひずみとひずみ度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	ひずみ度と応力度(2) 梁の応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	ひずみ度と応力度(3) 弾性係数	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	部材の設計(1) 許容応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	部材の設計(2) 曲げ材の設計	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	部材の設計(3) 組合せ応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT312016)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化と共に、より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち基礎である建築基準法・建築基準法施行令をメインとして、建築に関する法律の仕組みと体系について学習し、建築法規を手がかりに建築への理解を実務的視点から深める。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
建築関係法令の全体像を把握して、建築基準法の概要及び使用される重要な用語の意義・定義を理解できる。基準法の中でも、人々の生活に密接な係わりを持つ敷地・構造・建築設備・建築環境に関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要
建築基準法を理解する上で重要な条文について、図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から事例まで併せて解説すると共に、条文の理解を深めるための演習を行う。

授業の方法
授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、必ず答え合わせ・質疑応答の時間を設ける。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の位置づけ、建築用語の定義及び確認申請業務の理解	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけをすべて理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを8割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを6割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できなかった。
建築物の敷地に関連する規定(道路、用途地域、建蔽率、容積率、高さ等)の理解	建築基準法における建築物の敷地に関する規定を正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関する規定を8割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関する規定を6割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関する規定を理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関する規定を理解できなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基本建築関係法令集 令和3年版法令編』	国土交通省住宅局建築指導課 / 編集 建築技術者試験研究会 / 編	井上書院	2020	9784753021598	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT312016)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、建築関係法令とその背景(歴史的経緯と位置づけ、施行令・規則、人間・居住・都市・環境)	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築基準法の概要(法令構成・文脈・総則)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	建築基準法各論-1 実例から読み取る身近な建築基準法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	建築基準法各論-2 敷地・居室・主要構造部・構造体力上主要な部分	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	建築基準法各論-3 工作物、特殊建築物、建築行為	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築基準法各論-4 面積および階数の算定・建物の高さの算定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築基準法各論-5 許可申請等の手続規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建築基準法各論-6 耐火・準耐火・防火構造	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建築基準法各論-7 特殊建築物の役割とその定義・別表第1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	建築基準法各論-8 防火関係条文の構造とその理解	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	建築基準法各論-9 居室の採光と生活空間	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	建築基準法各論-10 床高・軒高・天井高	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	建築基準法各論-11 階段	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	建築基準法各論-12 居住環境と換気	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法各論-13 建築基準法と倫理	事前提示の条文熟読(90分)	本授業の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング: APT323039)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>建築の計画や設計をおこなう上での基準は健康者の身体能力であった。しかし、わが国では人口の高齢化が急速に進展し、高齢者は増加の一途を辿っている。さらに人口の高齢化に伴って、障がい者人口もさらに増加すると見られている。そこで、高齢者・障がいの身体特性を学び、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識の修得により建築計画ができる。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP「1(1)」、「3」,「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>高齢者・障がい者が多く暮らす疾病やこれに伴う心身の特性を理解し、生活上の不便、不都合を知ること生活空間の計画・設計上の配慮点を理解できる。また、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識を理解し、それに基づいて建築計画することができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>福祉環境整備に関する法制度の流れを理解し、高齢者・障がい者の身体特性を知る。福祉用具を利用するための住空間の規模計画、生活空間の部位の寸法など要点を把握する。</p>

授業の方法
<p>テキストに加えてプロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各单元ごとに課題し、それはレポート形式とする。課題は3課題を準備している。そのうちの最終課題は、住宅のバリアフリー化をテーマに計画・プレゼンし、それを講評する。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>講義における板書内容と配布資料を要領よく整理することが重要である。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。</p>

資格指定科目
<p>「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	10%	20%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	10%	20%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>福祉環境に関わる基礎的知識について</td> <td>知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得しており、それを応用できた。</td> <td>知識を十分に習得していた。</td> <td>基礎的な知識を理解できていた。</td> <td>基礎的な知識が不足していた。</td> </tr> <tr> <td>福祉用具と住空間に関する知識や計画について</td> <td>知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。</td> <td>知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。</td> <td>知識を習得して計画ができた。</td> <td>知識が不足し計画ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関する知識や計画について</td> <td>知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。</td> <td>知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。</td> <td>知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。</td> <td>知識を習得して計画ができた。</td> <td>知識が不足し計画ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。	福祉用具と住空間に関する知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。	建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関する知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。																								
福祉用具と住空間に関する知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。																								
建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関する知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』</td> <td>野村, 橋本</td> <td>彰国社</td> <td>2015</td> <td>978-4-395-32048-6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村, 橋本	彰国社	2015	978-4-395-32048-6		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村, 橋本	彰国社	2015	978-4-395-32048-6																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング: APT323039)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉環境計画の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	ハートビル法、障害者基本法、生活福祉空間づくり、その他関係法令	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
3	高齢者・障害者の身体特性	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
4	計画と設計に求められるコンセプト	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
5	高齢者・障害者の福祉用具1	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
6	高齢者・障害者の福祉用具2	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
7	住環境整備の計画1 アプローチ、駐車場、建物出入口	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
8	住環境整備の計画2 室内出入口、廊下、階段	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
9	住環境整備の計画3 エレベータ、便所	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
10	住環境整備の計画4 床の配慮、段差の解消	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
11	住環境整備の計画5 スペースの配慮、建具、収納	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
12	生活空間改善の手法 計画の基本と応用	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
13	生活空間改善の手法 計画例 1	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
14	生活空間改善の手法 計画例 2	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
15	生活空間改善の手法 計画例 3	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN312009)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

概要

履修目標
<p>建築にはどのような設備があり、その設備をどう計画し、どう作図するのか。本講義では、快適な住空間を構成するために必要な給水給湯設備・衛生排水設備・空調設備・電気設備・照明設備の知識、ならびに設備計画技術の基本を習得する。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP「1(1)」、「2(4)」に対応する。</p>

到達目標
<p>住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>給水給湯設備・衛生排水設備・空調設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、各種設備の役割を学ぶ。</p>

授業の方法
<p>授業では、板書やICTを活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で欠席1回とみなします。</p>

資格指定科目
<p>「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『世界で一番やさしい 建築設備』	山田浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN312009)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方	シラバスを読んでおくこと(90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	給水設備・給湯設備の概要と計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
3	給水設備・給湯設備の概要と計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
4	給水設備・給湯設備の概要と計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
5	衛生設備・排水設備の概要と計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
6	衛生設備・排水設備の概要と計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
7	衛生設備・排水設備の概要と計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
8	空調設備の概要と計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
9	空調設備の概要と計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
10	空調設備の概要と計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
11	電気設備の概要と計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
12	電気設備の概要と計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
13	電気設備の概要と計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
14	照明設備の概要と計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
15	照明設備の概要と計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
16	照明設備の概要と計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング: BSM313015)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
人命を預かる建築物を造り出す過程において、建築が社会に果たす意味や役割を考える力を養う。さらに、建築士試験の「建築施工」および建築施工管理技士試験に対応した基本事項の理解を深める。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
設計図書には詳しく表現されていない建築施工の各工程を学び、施工管理者としての実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士試験を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要
配布資料を中心に授業を行い、建築士試験に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験の過去問題を提供していくことで、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法
配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
配布資料を必ず持参すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上とし、満たさない場合は履修を中止する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築施工」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築施工テキスト』		日建学院	2020		
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング: BSM313015)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	工事前準備 (地盤調査)・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	工事前準備 (地盤調査)・問題・解説、工事前準備 (仮設工事)・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	地下工事(土工事・基礎地業工事)・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	工事前準備 (仮設工事)・地下工事・問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	鉄筋コンクリート (鉄筋工事・型枠工事)・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	鉄筋コンクリート工事 (鉄筋工事・型枠工事)・問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	鉄筋コンクリート工事 (コンクリート工事)・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	鉄筋コンクリート工事 (コンクリート工事)・問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	鉄骨工事・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	鉄骨工事・問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	コンクリートブロック工事・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	コンクリートブロック工事・問題・解説、木工事・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	木工事・講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	木工事・問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312003)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
店舗併用住宅の設計では、業務空間と居住空間およびその結合部の平面計画が基本となる。店舗部分の計画はその業種・職種によって多岐にわたり、その規模や家族構成、そして設定された計画地の地域状況によってそのパターンは無数の広がりを見せる。本講で、店舗併用住宅(兼用住宅)という1つのジャンルともいえる課題パターンに対するアプローチの手法をプランニング・エスキスからひもとき、計画内容を的確に図面表現する能力を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
木造の設計図面の描写や技法が製図規格的に従って表現され、それぞれの建築を創造・設計する意図が正しく、明確に伝えることができる。

授業全体の内容と概要
設計における基本計画、配置計画、規模計画、動線計画をふまえ、設計条件を満足するようにエスキスから設計図を完成させる。

授業の方法
授業は授業初めに板書と配布資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしていく。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
毎回、中間指導やエスキス作成があるので、製図道具は必ず携帯すること。また、課題制作のためには、自宅に製図版、製図道具を備えておくことが不可欠である。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上)												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。</td> <td>多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。</td> <td>多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。</td> <td>多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。</td> <td>多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。</td> <td>多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。</td> <td>木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。</td> <td>木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。</td> <td>木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。</td> <td>木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。</td> <td>木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。</td> <td>明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。</td> <td>明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。</td> <td>明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。</td> <td>明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。</td> <td>明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。	木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。	明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。																								
木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。																								
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>『適宜配布』</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312003)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。ガイダンス 授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	自宅の間取りの調査(90分)
2	店舗併用住宅の設計 課題解説(設計条件等)	ガイダンス時に配布された資料の熟読(90分)	自宅間取りをフリーハンドで作図(90分)
3	配置計画・ゾーニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	規模計画・平面計画	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	平面計画 エスキスチェック1	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	断面・立面計画 エスキスチェック2	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	矩計計画 エスキスチェック3	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	最終指導 エスキスチェック4	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
9	平面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	矩計図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	矩計図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	面積表・仕上げ表	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	提出・プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	提出・プレゼンテーション・講評会(予備)	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 (科目ナンバリング: AHD311005)				
授業担当者(所属・職名)	木下 泰男(建築学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木下 泰男)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での歴史建築保存調査と専門学校教員や海外の歴史建築の実測調査の実務を通して歴史様式や意匠等を講義する。		

概要

履修目標
日本と西洋の古代から近代にいたる社会背景の変革と建築の歴史の変遷を把握する。建築の歴史は先人たちが各々の時代において生活空間(住居・集落・国家)を建設し、より良い生活を営むための痕跡を学ぶことであり、冷静な判断力を養う建築の基本的な概念といえる。身近にある歴史的建造物や景観を培う心を養い、先達の知恵を更に未来に活かすという思想を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」、「2(4)」に対応する。
到達目標
膨大な建築の歴史を網羅することは難しいが、その一端に触れることで建築の歴史的側面に関連付けられる興味を持ち、建築史料や現存する建築や遺構などに足を運ぶ行動に繋げることができる。建築の歴史を理解する視点について説明できる。建築史学の考え方を理解することで、様々な建築の事象を建築学的に分析できる。各建築物の特性に即した調査研究活動を実施することができる。

到達目標
膨大な建築の歴史を網羅することは難しいが、その一端に触れることで建築の歴史的側面に関連付けられる興味を持ち、建築史料や現存する建築や遺構などに足を運ぶ行動に繋げることができる。建築の歴史を理解する視点について説明できる。建築史学の考え方を理解することで、様々な建築の事象を建築学的に分析できる。各建築物の特性に即した調査研究活動を実施することができる。

授業全体の内容と概要
建築史を学ぶ目的・目標を実現するために毎回配布する講義資料に沿って授業を進め、講義のポイントが演習問題として講せられる。返却時に解説コメントと口頭解説も取り集中して聴講することが求められる。板書事項は授業資料に記され、画像や図表を配布資料やプロジェクターなどで解説するので、「見て」・「聴いて」・「描いて」、理解する授業である。

授業の方法
授業では、テキストを基本に配布資料と板書及びプロジェクター等を用いて画像・図表を投影し視覚に訴え要点を解説講義する。後半、講義を通しての手掛かりのなるポイントを助言し、演習問題に取り組み、翌週までに解答し、提出する。返却時にフィードバック解説する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業開始時に配布する出席票に指名等を記入し回収する。遅刻は欠席扱いとなる。また、授業態度もチェックされるので留意すること。毎回の授業時に行う演習は小テストとして位置づけ、翌週には評価して返却されるので授業受講成果が自覚できる。出題への解答には配布資料(図版描写)のみならず講義を聴き考察した要点など求められ、高い評価につながる。定期試験は、テキスト・演習・板書の中から出題されるので、講義に集中してメモをとること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は12回以上。毎回の授業内で行う演習評価点(授業成果)が単位認定の過半を占めるので、授業欠席や演習の未提出は不合格に直結することになる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
20%	10%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
西洋/日本建築の様式・時代背景の理解把握	建築様式の時代背景の社会状況との関係が適切に理解でき、関連事項に広げ、更に展開した言及することができた。	建築様式の時代背景の社会状況との関係が適切に理解でき、関連付けて言及することができた。	建築様式の時代背景の社会状況との関係が適切に理解できていた。	建築様式の時代背景の社会状況との関係が概ね理解できた。	建築様式の時代背景の社会状況との関係が理解できなかった。
建築物と様式の特徴把握(図版理解)	建築物の特徴的造形や機能と時代の様式の特徴を適切に認識し、的確な建築図化の表現と理解ができた。	建築物の特徴的造形や機能と時代の様式の特徴を適切に認識し、概ね建築図化の表現と理解ができた。	建築物の特徴的造形や機能と時代の様式の特徴を概ね認識し、建築図化の表現を苦手とし概ね理解できた。	建築図化まで理解できていないが、建築物の特徴的造形や機能と時代の様式の特徴を認識できた。	建築物の特徴的造形や機能と時代の様式の特徴を認識できず理解できなかった。
建築造形図版のエスキス(描写)伝達表現力	建築造形図版のエスキス(描写)がプロポーション(均整)及びレイアウトよく明確な線画表現され、伝達コミュニケーション能力を備えていた。	建築造形図版のエスキス(描写)がプロポーション(均整)がよく明確な線画表現できていた。	建築造形図版のエスキス(描写)を明確な線画表現ができた。	建築造形図版のエスキス(描写)の線画表現ができた。	建築造形図版のエスキス(描写)が表現できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築史(増補改訂版)』	藤岡通夫・平井聖・ほか4名共著	市ヶ谷出版社	2010	9784870710023	¥3,000+税
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 (科目ナンバリング: AHD311005)				
授業担当者(所属・職名)	木下 泰男 (建築学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木下 泰男)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での歴史建築保存調査と専門学校教員や海外の歴史建築の実測調査の実務を通して歴史様式や意匠等を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。建築史の枠組み 西洋建築史と日本建築史を俯瞰する視点	シラバスを予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義の概略確認とレポートに取組む(90分)
2	西洋建築史(1) 古代文明の建築 エジプト建築とオリエンタル建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
3	西洋建築史(2) 西洋建築の規範 古代ギリシャ建築と古代ローマ建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
4	西洋建築史(3) キリスト教空間の出現とドーム建築 初期キリスト教教会建築とビザンツ建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
5	西洋建築史(4) 巨大な宗教空間 ロマネスク建築とゴシック建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
6	西洋建築史(5) 近世への扉 ルネッサンス建築とバロック建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
7	西洋建築史(6) 過去への郷愁と多様化 新古典主義建築と歴史主義建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
8	日本建築史(1) 住まいの原型と縄文・弥生・古墳時代の建築	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
9	日本建築史(2) 仏教伝来と寺院建築 伽藍配置と仏堂の役割	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
10	日本建築史(3) 伊勢と出雲 神社建築の様式と流れ	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
11	日本建築史(4) 都城と宮殿 京と宮、貴族住居の確立と展開	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
12	日本建築史(5) 仏教文化の国風化から中世寺院へ; 密教・浄土教の寺院、大仏様、神宗様、折衷様	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
13	日本建築史(6) 城郭建築と御殿 戦国武将の象徴、座敷の成立と武家文化	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
14	日本建築史(7) 書院・数寄屋・茶室の建築 権威と装飾、侘びの造形と洗練された美	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
15	日本建築史(8) 近世社寺と市井の建築 庶民信仰の寺院、歌舞伎劇場、能舞台、寺子屋、町屋	講義範囲に目を通し、講義内容の概略把握(90分)	講義の確認把握に演習問題に取組む(90分)
16	定期試験(後期): 試験(60分)と残りの時間で解説・フィードバック(30分)を行います。	後期講義指定の試験範囲の予習に取組む(60分)	解説を受けて授業全体の復習に取組む(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323017)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえよう表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

概要

履修目標
課題として、公共の小規模建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)(2)(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
小規模建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要
RC壁式構造で低層集合住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイアグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。

授業の方法
授業では、板書しながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
小規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集 第3版』日本建築学会編	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323017)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師) 向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方	シラバスを読んでおくこと(90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	即日課題1 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
3	即日課題2 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	即日課題3 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	即日課題4 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
6	設計課題 低層集合住宅計画 RC壁式構造(課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
7	設計課題 低層集合住宅計画 RC壁式構造(課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
8	中間指導 コンセプトと全体計画(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
9	中間指導 全体計画とランドスケープ(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
10	中間指導 ランドスケープと平面計画(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
11	中間指導 平面計画と断面構成(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
12	中間指導 平面計画と断面構成(ダイアグラムについて)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
13	中間指導 模型とプレゼンテーション(模型の造り方 レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
14	中間指導 プレゼンテーション(レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと(90分)	他の学生の発表内容をまとめる(90分)
16	最終指導 プレゼンテーションの指導(解説し、フィードバック)	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと(90分)	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312004)				
授業担当者(所属・職名)	日野 桂子(建築学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 日野 桂子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開設して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		

概要

履修目標
設計とは様々な事を考えること。四季の環境を捉え、敷地と建物の関係をよく把握し、建主の要望をくみ取るなど、一軒の建物を設計するのに沢山の思慮がある事を感じながら作図する。バランスが取れ、デザインの良い、魅力ある空間の建築を設計する。住宅の設計を行い、配置計画、外部環境と建築との関わり合い、生活動線を考慮することで、豊かな建築空間を計画する。空間のスケールを体感しながら、建築を設計する事を身につける。さらに講評会に向けてプレゼンテーション能力を高める。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
2軒の住宅について、魅力ある空間、建築を設計し、そのプランニングの意図を正しく明確に図面に描くことができる。

授業全体の内容と概要
実際の住宅建築の画像等を紹介し、住宅の特徴、コンセプト等を伝え、設計に生かす。毎回エスキスチェック、作図チェックを行う。エスキスからプランニング、平面図、立面図、断面図、で2次元の図面作成と3Dパースまたは模型で設計意図を表現し、A2用紙にまとめ完成させる。

授業の方法
設計のポイントを伝え、エスキスチェック、作図チェックを行う(調査学習含む)。2つの講評会を行い、学生と教員とで意見交換をする。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
筆記用具、製図道具、巻尺は必ず携帯すること。課題制作のためには、製図版、製図道具を使って手描きで作図、または、コンピューターによるCADソフトで作図、(手描き、画像、CAD図のコラージュ、3Dまたは模型)。 設計課題を製作中は集中して作業に取り組む。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
「単位に認定必要となる最低出席回数は、10回以上」必ず巻尺を持参。設計する建物のサイズを実測して計画する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
作図内容	A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができる。	A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができる。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項が描くことができる。	A2用紙(縦、横どちらでも)に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図作図することができた。	作図が完成できなかった。
設計デザイン力	その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意匠的にデザインされたプランができた。	その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。	プラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができなかった。
作業体制	巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	集中してエスキスどおりに作図することができた。	ほぼエスキスどおりに作図することができた。	エスキスどおりに作図できなかった。
講評会の発表	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。	発表を期日どおりに行うことができた。	期日に遅れても発表を行うことができた。	発表を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312004)				
授業担当者(所属・職名)	日野 桂子(建築学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 日野 桂子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開業して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方と課題提出までのスケジュール。実務で設計した建物を画像にて説明。	シラバスを読んでおくこと(45分)	与えられた課題を読み取ること(45分)
2	住宅建築1 設計課題。大学生の自分の家 配置計画、ゾーニング、エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
3	住宅建築2 設計課題。大学生の自分の家 配置図、平面図、立面図、断面図 エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
4	住宅建築3 設計課題。大学生の自分の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
5	住宅建築4 設計課題。大学生の自分の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
6	住宅建築5 設計課題。大学生の自分の家 配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
7	住宅建築6 設計課題。大学生の自分の家 配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
8	住宅建築7 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
9	住宅建築8 設計課題。家族の家 配置計画、ゾーニング エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
10	住宅建築9 設計課題。家族の家 配置計画、ゾーニング エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
11	住宅建築10 設計課題。家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
12	住宅建築11 設計課題。家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
13	住宅建築12 設計課題。家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
14	住宅建築13 設計課題。家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
15	住宅建築14 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)
16	最終回において課題提出物に対して評価しフィードバック。	教員のフィードバックに対する準備をしておくこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT312006)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

社会構造や価値観の多様化が顕著な今日の状況を的確に捉え、建築が社会に果たす役割や意味を再考すると共に、将来の建築のあり方を考える力を養う。また建築士試験科目の「建築計画」に対応すべく、建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科DP「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標

建築の基本原則を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

授業内容を網羅した資料を毎回配布し、その授業資料に沿って授業を進める。毎回の授業のポイントが演習問題として課せられ、さらに詳細な解説も行うので集中して聴くことが求められる。

授業の方法

板書事項は授業内容を記した資料で賄う。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取りまとめた演習1を毎回授業終了後提出してもらおう。情報量は多く、見て、聴いて、理解できる授業である。演習2は、提出後一人ずつ講評を記述して返却する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅列者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内で行う演習評価点(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	70%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築が社会にはたす役割や意味を再考すると共に、将来の建築のあり方を考える力を修得する。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の社会状況の変化に対して建築のあり方を考えることができた。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解できた。	建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。	建築が社会にはたす役割を理解できなかった。
建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。
建築の基本原則を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。	建築の基本原則に興味を持ち、さまざまな建築のあり方について理解することができた。	建築の基本原則に興味を持ち理解することができた。	建築に対する興味を持つことができた。	建築に対する興味をおおむね持つことができた。	建築に対する興味を持つことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT312006)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 「建築計画」で学ぶこと	シラバス事前確認(90分)	演習2作成(90分)
2	建築のかたち(1) 建築のかたちを規定する自然的条件 温湿度, 風, 日照・日射, 敷地形状, 街路	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
3	建築のかたち(2) 建築のかたちを規定する人為的要素 起居方式, 歴史・伝統, 社会構造, 機能	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
4	建築空間の性能(1) 快適性 熱環境, 光環境, 音環境, 空気環境, 心理環境	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
5	建築空間の性能(2) 利便性 面積・容積, 高さ,ゾーニング, 動線計画, 空間の質と量	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
6	建築空間の性能(3) 安全性 災害と安全, 避難計画, 内装制限, 排煙, 防火	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
7	建築空間の性能(4) 耐久性と経済性 耐用年数, ライフサイクルコスト, S I方式, 保存・再生	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
8	建築計画の基礎(1) 空間知覚の原理 五感と空間知覚, 視認距離, 曲み感, 黄金分割	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
9	建築計画の基礎(2) 形態知覚と空間特性 ゲシュタルト心理学, 空間感覚	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
10	建築計画の基礎(3) 色彩, 色彩と心理, 色彩と環境	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
11	建築計画の基礎(4) 寸法と規模と単位空間 人体寸法, 動作寸法, 規模算定, 単位空間, 階段・斜路	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
12	建築計画の基礎(5) 空間の仕切り方とディテール 仕切りの手法, 収まりの手法	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
13	居住施設計画(1) 戸建住宅と住宅地計画 住居の種類, 生活と間取り, 住環境計画, 日影規制	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
14	居住施設計画(2) 集合住宅の計画 近隣組織, 地域福祉計画, 家族と住居	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
15	居住施設計画(3) 住宅地計画 地域居住, 近隣組織, 地域福祉計画, 家族と住居	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
16	試験(試験結果・解説ならびに提出課題の総評)	資料参照(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
科目名称	建築材料実験 (科目ナンバリング: BSM312014)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		

概要

履修目標	基本的な建築材料の特性である物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。
------	--

授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」、「2(4)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。
------	---

授業全体の内容と概要	主に鉄筋コンクリート構造の構成材料である鋼材とコンクリート材料に関するJIS規格試験を実施する。コンクリートと鋼材の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。
------------	--

授業の方法	授業は配布資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い、実験報告書の提出を行う。実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	実験作業に適した汚れても良い服装とし、スリッパ・サンダル履きは厳禁とする。作業や機器類の操作は教員の指示確認に従い、安全第1とする。電卓、ノート、筆記用具を必ず持参すること。
----------	---

資格指定科目	教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程必修科目
--------	-------------------------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予備ができた。	実験内容の予備ができた。	頻繁に実験内容の予備ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
科目名称	建築材料実験 (科目ナンバリング: BSM312014)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 実験実習ガイド	シラバス資料を確認して、実験内容を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
3	コンクリートの調査設計	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
5	コンクリート調査(試験練り・本練り)	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
6	JIS A 1101スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
7	JIS A 1128空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
8	JIS A 1108圧縮強度試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
9	JIS A 1113割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
13	JIS Z 2201鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
16	まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容全体について資料を整理して、レポート作成に備える(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324063)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	二級建築施工管理技士(学科)試験合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。				
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。				
到達目標	国家資格である「二級建築施工管理技士」の学科試験合格できる学力を備えることができる。				
授業全体の内容と概要	使用テキストに沿って「二級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。				
授業の方法	授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努める。				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を勘案し、総合的に判断する。単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上とし、満たさない場合には履修を中止する。また、定期試験は実施せず、日常授業の8回の小テストの結果を勘案して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に向けて取り組む意志があった。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	令和3年度 二級建築施工管理技士学科テキスト		日建学院	2021		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324063)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	構造力学・問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	計画原論・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	計画原論・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	一般構造・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	一般構造・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	その他建築学・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	その他建築学・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	施工共通・設備・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	施工共通・設備・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	建築基準法・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	建築基準法・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	労働基準法・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	労働基準法・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	施工管理法 - 問題(施工計画・申請・届出・工程計画・工程管理)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
16	施工管理法 - 解説(施工計画・申請・届出・工程計画・工程管理)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324064)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	二級建築施工管理技士試験合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。				
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。				
到達目標	国家資格である「二級建築施工管理技士」の学科試験合格できる学力を備えることができる。				
授業全体の内容と概要	使用テキストに沿って「二級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。				
授業の方法	授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を動かし、定期試験とともに総合的に判断する。単位認定に必要な最低出席回数は10回以上とし、満たさない場合には履修を中止する。				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上とし、満たさない場合には履修を中止する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に向けて取り組み意志があった。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていなかったまたは、取り組み意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	令和2年度 二級建築施工管理技士学科テキスト		日建学院	2020		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324064)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	施工管理法 - 問題・解説(品質管理・安全管理)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	躯体工事 - 問題(地盤調査・仮設工事・土工事・山留工事・基礎工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	躯体工事 - 解説(地盤調査・仮設工事・土工事・山留工事・基礎工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	躯体工事 - 問題(鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	躯体工事 - 解説(鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	躯体工事 - 問題(鉄骨工事・その他工事・建設機械・器具)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	躯体工事 - 解説(鉄骨工事・その他工事・建設機械・器具)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	仕上げ工事 - 問題(防水工事・シーリング・屋根工事・左官工事・塗装工事・吹き付け工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	仕上げ工事 - 解説(防水工事・シーリング・屋根工事・左官工事・塗装工事・吹き付け工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	仕上げ工事 - 問題(張り石工事・タイル工事・ガラス・建具工事・カーテンウォール工事・木工事・金属工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	仕上げ工事 - 解説(張り石工事・タイル工事・ガラス・建具工事・カーテンウォール工事・木工事・金属工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	仕上げ工事 - 問題(内装工事・その他仕上げ工事・ALCパネル工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	仕上げ工事 - 解説(内装工事・その他仕上げ工事・ALCパネル工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	定期試験	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(45分)	定期試験内容を整理して、復習する(45分)
16	定期試験の解説	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(45分)	定期試験内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築計画」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要
2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。

授業の方法
テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	100%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。環境工学 気象・室内環境・屋外気候・換気・通風	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	環境工学 伝熱・結露・日照・日射	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	環境工学 採光・音響・色彩	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	環境工学 環境工学融合・用語	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	建築計画 独立住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	建築計画 集合住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	建築計画 商業建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	建築計画 公共建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	建築計画 計画一般	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	建築計画 都市計画・地域計画	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	建築設備 用語・空調調和設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	建築設備 給水・給湯・排水・衛生設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	建築設備 電気設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築設備 照明設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築設備 消火・防災・設備融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)、向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築法規」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要
2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。

授業の方法
テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	100%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項の理解	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項の理解	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項の理解	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)、向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。用語・面積・高さ	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	採光・換気	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	階段・傾斜路	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	構造強度、構造計算	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	法22条区域内・特殊建築物	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	木造3階建共同住宅等	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	防火地域・準防火地域内	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	防火区画・内装制限・用途地域	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	容積率・建ぺい率・高さの制限	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	道路・壁面線	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	雑則・その他、基準法融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	バリアフリー法・耐震改修法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築士法・都市計画法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	品確法・長期優良住宅法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築構造」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要
2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。

授業の方法
テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	100%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。
各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。静定構造物・反力・応力	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	静定ラーメン・静定トラス	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	断面の性質	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	応力度と許容応力度	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	座屈・変形	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	地震力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	風圧力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	荷重・外力融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	地盤・基礎構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	木構造 耐力壁・接合法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	R C造 構造設計・各部の設計	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	S造 構造設計・接合部	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	その他構造 壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック造・組構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築材料 木材・セメント・骨材・コンクリート	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築材料 金属・ガラス・材料融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界での根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築施工」にターゲットを絞り、その傾向と対策演習を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要
2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。

授業の方法
テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をすべて正確に解くことができる。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を正確に解くことができる。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができる。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができる。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができる。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができる。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができる。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができる。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができる。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができる。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができる。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができる。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。施工計画・ネットワーク工程表	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	安全衛生管理・材料管理・工事管理業務	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	渉外諸手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	土工事・基礎地業工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	鉄骨工事・コンクリートブロック工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	木工事・防水・屋根工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	左官工事・タイル・張石工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	塗装工事・建具・ガラス工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	内装・断熱工事・設備工事・ユニット工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	用語・機械-工法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築積算・測量	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	工事契約-請負契約・契約図書	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314007)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「ひとと建築を取り巻く環境」を都市空間と捉え、都市の発展を計画する上で必要な知識を修得する。また、都市計画の基礎とともに、人口増加を前提とした都市化の時代は終焉を迎え人口減少、少子高齢社会となったわが国における新たな時代に必要となる都市計画・まちづくりを計画できる知識を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
めまぐるしく変化する社会や都市の将来を見据え、働く機会と生活する場所が確保され、平和で安全に、そして安心して暮らすことの出来る都市がどのように形成されるか今後どのような方向を目指すのかを理解し、これからの都市を計画立案できるための基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
指定テキストのほかに毎回資料を配布し、採用しながら講義を進める。授業内容の記録を演習1とし、授業終了後提出する。授業内容に関わる内容の記述式レポートを演習2とし、次週の授業開始時に提出する。

授業の方法
板書事項は授業資料として記したものを配布する。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確保するため授業ノートを取り、毎回授業終了後提出してもらおう。情報量は多く、見て、聴いて、理解できる授業である

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
授業に遅刻すると欠席とみなし、配布資料を入手することができなくなるため注意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内で行う演習評価点(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	80%	0%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	80%	0%	0%	0%	20%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世界の中から抽出した都市を対象に、古代から現代までを時間軸に則し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。</td> <td>時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。</td> <td>時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。</td> <td>時間軸で都市の変化を理解することができた。</td> <td>都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。</td> <td>都市を時間軸で捉えることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>都市を成り立たせるための知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。</td> <td>都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。</td> <td>都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。</td> <td>都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。</td> <td>都市計画にかかわる法律があることを理解できた。</td> <td>都市計画のための法律を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていること、都市計画との違いを理解する。</td> <td>現代社会の都市計画とまちづくりの重要性と必要性を理解できた。</td> <td>現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。</td> <td>都市計画とまちづくりの違いを理解できた。</td> <td>まちづくりがめざすものが理解できた。</td> <td>まちづくりの重要性を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	世界の中から抽出した都市を対象に、古代から現代までを時間軸に則し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。	都市を成り立たせるための知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。	現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていること、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画とまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
世界の中から抽出した都市を対象に、古代から現代までを時間軸に則し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。																																				
都市を成り立たせるための知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。																																				
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていること、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画とまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『都市計画とまちづくりがわかる本』</td> <td>伊藤雅春他</td> <td>彰国社</td> <td>2018</td> <td>9784395320936</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314007)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明「都市計画」で学ぶこと	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	都市論	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市計画論	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の構成要素	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市の把握と解析	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市と居住	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市の環境	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市の構成計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市の構造計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市設計	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市の基本計画を実現する手段としての都市計画法	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画と国土の利用	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	第三世界の都市と都市計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
14	都市計画小史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
15	日本のまちづくりを観る	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
16	総評(演習課題の提出状況と評価・解説)	演習課題提出確認(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314007)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「ひとと建築を取り巻く環境」を都市空間と捉え、都市の発展を計画する上で必要な知識を修得する。また、都市計画の基礎とともに、人口増加を前提とした都市化の時代は終焉を迎え人口減少、少子高齢社会となったわが国における新たな時代に必要となる都市計画・まちづくりを計画できる知識を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
めまぐるしく変化する社会や都市の将来を見据え、働く機会と生活する場所が確保され、平和で安全に、そして安心して暮らすことの出来る都市がどのように形成されるか今後どのような方向を目指すのかを理解し、これからの都市を計画立案できるための基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
指定テキストのほかに毎回資料を配布し、援用しながら講義を進める。授業内容の記録を演習1とし、授業終了後提出する。授業内容に関わる内容の記述式レポートを演習2とし、次週の授業開始時に提出する。

授業の方法
板書事項は授業資料として記したものを配布する。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確保するため授業ノートを取り、毎回授業終了後提出してもらおう。情報量は多く、見て、聴いて、理解できる授業である

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
授業に遅刻すると欠席とみなし、配布資料を入手することができなくなるため注意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内で行う演習評価点(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	80%	0%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	80%	0%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>世界の中から抽出した都市が、古代から現代までを時間軸に別し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。</td> <td>時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。</td> <td>時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。</td> <td>時間軸で都市の変化を理解することができた。</td> <td>都市の変化に時間という要素が不可欠であることが理解できた。</td> <td>都市を時間軸で捉えることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。</td> <td>都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。</td> <td>都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。</td> <td>都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。</td> <td>都市計画にかかわる法律があることを理解できた。</td> <td>都市計画のための法律を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と、都市計画との違いを理解する。</td> <td>現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。</td> <td>現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。</td> <td>都市計画とまちづくりの違いを理解できた。</td> <td>まちづくりがめざすものが理解できた。</td> <td>まちづくりの重要性を理解できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	世界の中から抽出した都市が、古代から現代までを時間軸に別し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であることが理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。	都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。	現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
世界の中から抽出した都市が、古代から現代までを時間軸に別し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であることが理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。																								
都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。																								
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『都市計画とまちづくりがわかる本』</td> <td>伊藤雅春他</td> <td>彰国社</td> <td>2018</td> <td>9784395320936</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314007)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明「都市計画」で学ぶこと	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	都市論	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市計画論	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の構成要素	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市の把握と解析	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市と居住	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市の環境	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市の構成計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市の構造計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市設計	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市の基本計画を実現する手段としての都市計画法	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画と国土の利用	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	第三世界の都市と都市計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
14	都市計画小史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
15	日本のまちづくりを観る	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
16	総評(演習課題の提出状況と評価・解説)	演習課題提出確認(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学（建築図学を含む）（科目ナンバリング：APT321034）				
授業担当者（所属・職名）	長森 正（建築学科・教授）	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2	（単位認定責任者：長森 正）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義します。		

概要

履修目標

今はコンピュータグラフィックスで立体を簡単に表現できるが、歴史的には、次元を 次元平面に如何に工夫して科学的に表現するかに苦心してきた。専門の建築に關する製図につながる図学の基本理解を、理論のみならず作図作業を経験することでより良く理解することができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP「1（1）」、「2（2）」に対応する。

到達目標

図学を学習することで、2次元の図から3次元をイメージすることができる。

授業全体の内容と概要

毎回教室で作図し提出する。講義が進むにつれて平面から立体化する方法も取り入れて講義する。

授業の方法

教科書の作図例に沿って解説しながら講義する。授業はパワーポイントやOHPを利用して作図を説明しながら実施する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な作図作業を課す。フィードバックとして作図の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中に簡単な作図作業があるので、必要な製図器具持参のこと。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
図形幾何学の基礎	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解でき、三角定規・コンパスを用いて応用的な作図ができた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解でき、三角定規・コンパスを用いて作図ができた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解でき、基本的な作図ができた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解できた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解できなかった。
投象法の基礎	図形の投象法を十分理解し、応用的な作図ができ、他人に説明できた。	図形の投象法を十分理解し、応用的な作図ができた。	基本的な図形の投象法を理解でき、他人に説明ができた。	基本的な図形の投象法を理解できた。	基本的な図形の投象法を理解できなかった。
透視図の基礎	立体の透視投象の種類を十分理解し、応用的な作図ができ、他人に説明できた。	立体の透視投象の種類を十分理解して作図ができた。	立体の基本的な透視投象を理解して作図ができ、他人に説明できた。	立体の基本的な透視投象を理解して作図ができた。	立体の基本的な透視投象を理解して作図できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『規準課程 図学』	井上 智・井畑孝夫他	共立出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学（建築図学を含）（科目ナンバリング：APT321034）				
授業担当者（所属・職名）	長森 正（建築学科・教授）	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義します。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 図学の基本	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	シラバス内容を理解し復習する（90分）
2	平面幾何演習・作図基礎	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
3	正投影（1）点	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
4	正投影（2）線	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
5	正投影（3）跡点	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
6	立体の相貫	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
7	三角錐と三角柱の相貫	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
8	陰影（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
9	陰影（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
10	標高投影	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
11	軸測投影	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
12	斜投影	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
13	透視図 その1	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
14	透視図 その2	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
15	透視図 その3	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
16	まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容全体について資料を整理して、復習する（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング: S0F321046)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	4年間をととして建築表現に必要な不可欠なデジタルデバイスによる表現方法を修得する。							
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	基本的なデジタルプレゼンテーションツールを自在に操れることができる。							
授業全体の内容と概要	コンピュータ操作の初歩として、コンピュータOSやその周辺の知識修得とデジカメやスキャナを使用したプレゼンテーションを行う。							
授業の方法	毎回テキストに沿いながら、担当者のサイトを参照し、そこからデータをダウンロードして課題制作を行う。発表会形式での講評会を実施し、課題提出先は担当者の指定フォルダにアップロードすることにより完結する。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	教科書はもちろん、各自USBメモリを携行のこと。							
資格指定科目								

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(単位認定に必要な最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
デジタルツールによって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
課題の意図を理解して的確に企画を立案できるか。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがほぼできた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度以上できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	今すぐ使えるかんたんPhotoshop Elements 15	技術評論社編集部	技術評論社	2016	9784774185392	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング: S0F321046)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 コンピュータOS, コンピュータデバイス, コンピュータメディア	オリエンテーション時に指示の資料を熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	WORDによるプレゼンテーション/2D案内図	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
3	WORDによるプレゼンテーション/3D案内図	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
4	Photoshopの原理	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
5	扱う画像の種類と用途	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
6	レイヤの概念	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
7	画像編集の基礎	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
8	画像編集の応用	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
9	文字の入力編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
10	スキャナによる画像取込	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
11	パノラマの作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
12	ストリートビューの作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
13	クリスマスカードの製作	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
14	年賀状の製作	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
15	他のソフトとPhotoshopとの連携	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング: S0F321047)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	4年間をととして建築表現に必要な不可欠なデジタルデバイスによる表現方法を修得する。							
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	コンピュータを使用した画像の編集や変換について修得し、複数のソフト・アプリを駆使したデジタルな表現を自由自在に展開できる。							
授業全体の内容と概要	「プレゼンテーションツール」を発展させ、画像の編集や変換を伴ったプレゼンテーションボードの制作をおこなう。							
授業の方法	毎回テキストに沿いながら、担当者のサイトを参照し、そこからデータをダウンロードして課題制作を行う。発表会形式での講評会を実施し、課題提出先は担当者の指定フォルダにアップロードすることにより完結する。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	教科書はもろろん、各自USBメモリを携行のこと。							
資格指定科目								

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(単位認定に必要な最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精緻なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	精緻なプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	精緻なプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	精緻なプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができる程度以上できた。	精緻なプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	精緻なプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
複数のデジタルツールを駆使して自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	複数のデジタルツールを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	複数のデジタルツールを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	複数のデジタルツールを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	複数のデジタルツールを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	複数のデジタルツールを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
課題の意図を理解して迅速に企画を立案できるか。	課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができた。	課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがほぼできた。	課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度以上できた。	課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度できた。	課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	今すぐ使えるかんたんPhotoshop Elements 15	技術評論社編集部	技術評論社	2016	9784774185392	
2						
3						
4						
5						
参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング: S0F321047)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 キャッチロゴの作成	オリエンテーション時に指示の資料を熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	各種フィルタ	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
3	画像変換	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
4	GIFアニメの作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
5	Movieから静止画を取り出してスライドショーの作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
6	画像編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
7	JW_CADの作図結果をPhotoshopで編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
8	JW_CADの作図結果をPhotoshop以外で画像変換	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
9	音源の取扱い	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
10	音源の編集と加工	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
11	VectorWorks等のCADデータをPhotoshopで加工するときの注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
12	Movieの取り込み	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
13	「表現演習」プレゼンパネルの制作	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
14	マンション広告の作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
15	プリンタ・プロッタ出力	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
16	講評会・フィードバック	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング: AEN322049)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
近年、ユニバーサルデザインに関する情報の量は目覚しく増大し、その考え方を反映したものが数多く開発・生産・販売されており、「ものづくり」とおとして共生社会実現のための理解を深め、さらに指定した単位空間を対象にその実測調査をおこない、そこから問題点を明らかにし、ユニバーサルデザインの視点から改修計画を提案する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(3)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
疑似体験により介助される側・介助する側としての両立場を理解する。生活空間のあり方に対して自分なりの考えを見つけるきっかけとなり、身の回りにある製品・商品および空間に対しての理解、ユニバーサルデザインの視点からの建築空間の評価、改善計画の提案とその発表する能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要
前半は疑似体験を通して、身体障がい者並びに高齢者の身体機能の低下を体感し、生活活動に対する心理状態を推測し、理解の一助とする。後半はユニバーサルデザインの考え方を製品・商品に積極的に取り入れている企業への現地調査を実施する。さらに、不特定多数の利用者が対象となる空間の実測とその改修計画に取り組みユニバーサルデザインの視点で提案をおこない、プレゼンテーション後、作品ごとに講評をおこなう。

授業の方法
疑似体験は、体験者・介助者・観察者の三者の視点でおこなう。ユニバーサルデザインを考えた製品・商品の調査には、企業を直接訪問し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた製品に対する理念、開発から実現へのプロセスを理解する。プレゼンテーション・提案など、指定された課題は必ず提出すること。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
製品調査に際しては大学外での現地調査となるため、建築を学ぶ学生として行動・言動・マナーなど各自責任ある態度が求められる。また積極性と自発的な行動力を求める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
演習科目であり原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、積極的に演習に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	60%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	60%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し、実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。</td> <td>ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。</td> <td>概念を理解し、実例を通して有用性実例を認識できた。</td> <td>概念を理解できた。</td> <td>おおむね概念が理解できた。</td> <td>レポートが提出できなかった。</td> </tr> <tr> <td>指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面作成をおこない、現状における問題点を見つける。</td> <td>優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。</td> <td>図面を作成し多くの問題点を見つけ出すことができた。</td> <td>図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。</td> <td>図面を完成することができた。</td> <td>図面を作成することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。</td> <td>非常に優れた改修計画を提案できた。</td> <td>優れた改修計画を提案できた。</td> <td>改修計画を提案できた。</td> <td>多少問題があるものの改修計画を提案できた。</td> <td>改修計画を提出することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し、実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し、実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解できた。	レポートが提出できなかった。	指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面作成をおこない、現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。	ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し、実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し、実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解できた。	レポートが提出できなかった。																								
指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面作成をおこない、現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。																								
ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング: AEN322049)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 ユニバーサルデザインとは	シラバス事前確認(90分)	受講の注意の確認(90分)
2	疑似体験プログラム(A.高齢者)	教科書確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
3	疑似体験プログラム(B.右片麻痺)	教科書確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
4	疑似体験プログラム(C.車椅子)	教科書確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
5	疑似体験の振り返りとまとめ	体験プログラム3回分のデータ確認(90分)	取りまとめた内容整理(90分)
6	実測調査 対象の実測	実測用具の確認(90分)	実測データの整理(90分)
7	実測調査 収集データのまとめ	データ不足箇所の確認(90分)	実測データの整理(90分)
8	実測図作成1 平面図・展開図	実測データの確認(90分)	図面確認(90分)
9	実測図作成2 平面図・展開図	図面確認(90分)	図面確認(90分)
10	ユニバーサルデザイン製品・販売元の現地調査	調査場所の確認(90分)	入手資料確認(90分)
11	ユニバーサルデザイン製品・販売元の現地調査	調査場所の確認(90分)	レポート作成(90分)
12	改修計画案の検討	調査場所の確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
13	改修計画案の作図1 平面図	計画内容の確認(90分)	図面の完成度確認(90分)
14	改修計画案の作図2 展開図	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
15	現地調査・改修計画案 提出・発表	発表準備(90分)	発表内容の振り返り(90分)
16	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321050)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。「建築表現」では、空間表現や建築図面表現に必要な平面系の基礎力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要
毎回、課題の制作を主とした実技形式の授業をおこなう。基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとにおこなう。課題制作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。ひとつの課題シリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を制作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこととする。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(ただし最低出席回数10回以上)とし、積極的に課題に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>85%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	85%	0%	15%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	85%	0%	15%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を理解し、適切な使い方を理解し、適切な使い方で実践できる。</td> <td>基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。</td> <td>基本的使い方が十分にできた。</td> <td>基本的な使い方を理解し実践できた。</td> <td>基本的な使い方を理解しおむねできた。</td> <td>必要な道具が準備されず実践できなかった。</td> </tr> <tr> <td>期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。</td> <td>すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。</td> <td>すべての課題を期限内に作成完成することができた。</td> <td>課題を期限内に作成完成することができた。</td> <td>おむね課題を期限内に作成完成することができた。</td> <td>期限内に課題を提出できなかった。</td> </tr> <tr> <td>平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすること、それを表現するための技術を修得する。</td> <td>技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。</td> <td>技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。</td> <td>技術を身につけおむね発想力と表現力による作品が制作できた。</td> <td>技術を身につけ作品をすべて制作できた。</td> <td>技術を身につけることができず、作品を制作することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を理解し、適切な使い方を理解し、適切な使い方で実践できる。	基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおむねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。	期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。	平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすること、それを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができず、作品を制作することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を理解し、適切な使い方を理解し、適切な使い方で実践できる。	基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおむねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。																								
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。																								
平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすること、それを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができず、作品を制作することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321050)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)		研究室所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	使用する道具と材料の種類と使い方の説明	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	点景1(空の表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	点景2(樹木の表現 立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	点景3(樹木・植栽等の表現 配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
6	講評会(点景)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
7	レタリング1(漢字 明朝体・ゴシック体)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
8	レタリング2(アルファベット)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	講評会(レタリング)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
10	色彩1(建具)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	色彩2(建築外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	講評会(色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
13	トレードマークの製作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	表札の製作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(トレードマークと表札)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321069)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321069)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321051)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえ、そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。したがって空間表現や建築図面表現に必要な立体系の基礎的能力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要
基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとにおこなう。前半はキーワードをもとに発想した空間の立体表現、後半では建築模型の基礎的課題に取り組む。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成し提出する。

授業の方法
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>85%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	85%	0%	15%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	85%	0%	15%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。</td> <td>基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得することができた。</td> <td>基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得するための練習に取り組むことができた。</td> <td>基本的道具の使い方を習得することができた。</td> <td>基本的道具の使い方をとおむね習得することができた。</td> <td>基本的道具の準備・管理ができず、使い方を習得することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理が適切及び基本姿勢を修得する。</td> <td>すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。</td> <td>すべての課題を期限内に作成完成することができた。</td> <td>課題提出のためのスケジュール管理ができた。</td> <td>課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。</td> <td>スケジュール管理ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにすること、そのための表現する技術を修得する。</td> <td>配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた。</td> <td>配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。</td> <td>建築空間を構想し表現することができた。</td> <td>建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。</td> <td>建築空間を構想することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得するための練習に取り組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をとおむね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず、使い方を習得することができなかった。	期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理が適切及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。	スケジュール管理ができなかった。	立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにすること、そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた。	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得するための練習に取り組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をとおむね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず、使い方を習得することができなかった。																								
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理が適切及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。	スケジュール管理ができなかった。																								
立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにすること、そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた。	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321051)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	使用する道具と材料・使い方の説明	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	立体構成1(壁)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	立体構成2(床)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(壁・床)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	立体構成3(タワー)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	立体構成4(スカイハウス)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(タワー・スカイハウス)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	立体構成5(サイコロの製作)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	立体構成6(建築模型の製作1) 建築模型とは	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	立体構成6(建築模型の製作2) 建築模型の作り方	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	講評会(建築模型)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
13	プレゼンテーション(建築模型の写真撮影)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	プレゼンテーション(プレゼンテーションパネルの製作)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(プレゼンテーションパネル)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321070)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321070)			
授業担当者(所属・職名)			研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT322021)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築計画 は、公共施設をはじめ地域に居住する住民の生活に貢献する施設を対象に、現代の社会状況のなかでどのように計画されなければならないかという視点で学ぶ。そのためには地域施設に求められる役割と、建築としてどのように具体的な計画内容と結びつけていかなければならないかを理解する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
各種施設を対象に、その施設はどのような特徴的なはたらきをもつ施設であるか(基本事項)、社会状況によって施設の役割も変化してきたのか、今後その施設のあるべき姿について考察する力を身につけ、それぞれの設計活動に活用できる。

授業全体の内容と概要
授業の前半では、地域施設の歴史的背景から現在の施設における施設機能などの基本事項を解説する。後半では施設をとりまく社会状況をデータや資料をもとに理解し把握する内容になっている。

授業の方法
授業ではテキストのほかに、毎回配布する資料(テキストの内容を補充)を用いて授業を進める。授業の出席を重視するため、原則として授業資料は授業時間開始時のみ配布する。各施設に関するレポートを課しその提出を必修とする。提出されたレポートについて講評を記述し返却する。小テスト終了後、回答と結果について講評する。

アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
					その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業開始時に配布する着席票に氏名を記入し回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回授業開始時におこなう小テスト(前回のふり返りテスト)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席は不合格に直結することになる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含め、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、および昨機能変化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。
対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。
社会状況により施設のあり方が変化すること、将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化した関係性も含めその施設及びあるべき姿について理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したたり施設の在り方が替わることを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したことを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『わかる建築学 建築計画 [第二版]』	浅野平八他	学芸出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT322021)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明	シラバス事前確認(90分)	教科書確認(90分)
2	計画共通事項 バリアフリー法	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
3	図書館	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
4	スポーツ施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
5	幼稚園・保育所	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
6	学校	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
7	美術館・博物館	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
8	公民館・コミュニティ施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
9	宿泊施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
10	医療施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
11	福祉施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
12	商業施設・駐車場 業務施設(定義と分類, コアタイプ, オフィスレイアウト, 設備計画, E V計画)	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
13	集合住宅	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
14	地域計画	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
15	振返り試験	小テスト全体復習(90分)	振返り試験復習(90分)
16	総評(試験結果発表, 成績評価と解説)	資料参照(90分)	全体の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT322031)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
日常生活をとりまく建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化とともに、より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令他、関係法令からまちづくりや住まいづくり、建築のデザインに関わる法令法規について学習し、住宅やまち・都市を取り巻く今日の課題と法整備の状況を理解する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
建築基準法に定める集団規定の持つ意義や規定を理解し、都市デザインに密接な係わりを持つ道路と敷地・用途地域・各種高さ制限などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要
建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。

授業の方法
授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストも取り、解説することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画区域等における建築物の敷地、用途、建築物等の理解	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができなかった。
都市計画区域等における建築物の接する道路等の理解	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基本建築関係法令集 令和3年版法令編』	国土交通省住宅局建築指導課 / 編集 建築技術者試験研究会 / 編	井上書院	2020	9784753021598	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT322031)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。建築基準法と都市計画法	建築法規 の振り返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市と道路	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	用途地域・実例で見る建築用途制限の詳細	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	許可申請の手続き	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	容積率1-敷地の容積率の限度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	容積率2-建築物の容積率の緩和・特定道路・地区計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	容積率3-天空率の計算と実例	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	都市計画図と建ぺい率	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	斜線制限(道路斜線制限・隣地斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	斜線制限(北側斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	斜線制限(その他の高さ制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	斜線制限と緩和規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	日影規制	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	日影図(含CADによるシミュレーション)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法と倫理2	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
CAD教育の始めとして、コンピュータによる作図が自在に出来るように、基本操作から木造・RC造設計課題を2次元CADで「建築製図」として仕上げられる程度まで修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
2次元CADを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように、自由自在に使えるための基本操作と作図手順を行うことができる。

授業全体の内容と概要
コンピュータ室にて、2次元CADであるjw_cadを用いて、木造およびRC造についての演習を行う。店舗併用住宅の設計課題に取り組み、自由に作図できるようにjw_cadを習得する。

授業の方法
コンピュータ室にて、2次元CAD画面を大型ディスプレイに表示しながら解説する。設計課題では作成したエスキスを個別にプレゼンしてもらい、図面確認と修正指導を行うことでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業はコンピュータ室を使うので座席指定をします。USBメモリーは持参すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
2次元CADの特性を活かした作図ができるか	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することができた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することがほぼできた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することがある程度以上できた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することがある程度できた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することができなかった。
設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案できるか	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがほぼできた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度以上できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができなかった。
JW_CADを駆使して自身の計画内容を他者に伝えることができるか	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013(エクステンションブック Jw_cadシリーズ1)』	Jiro Shimizu(著), Yoshifumi Tanaka(著)	エクステレッジ	2012	978-4767813929	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。インストールと設定、レイヤ・作図・編集等基本操作	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
2	レイヤ・作図・編集コマンド	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
3	木造平面図	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
4	木造立面図	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
5	R C造マンション平面図の作成1	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
6	R C造マンション平面図の作成2	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
7	R C造マンション平面図の作成3	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
8	R C造マンション敷地図と南側立面図の作成	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
9	2.5Dの作成1	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
10	2.5Dの作成2	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
11	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成1	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
12	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成2	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
13	内部パースの作成(CADデータのインポート)	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
14	内部パースの作成(柱壁の立ち上げ)	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
15	内部パースの作成(着色)	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322037)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「CAD演習」を受けて本講ではJW_CADより高機能なCADであるVectorWorksの主に2次元作図操作について学ぶ。特に設計製図科目との連携も図り、図面表現が単なる「お絵かき」ではなく、「建築製図」として仕上げる段階までCADが設計ツールとして扱えるように修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
3次元CADを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように作図できる。

授業全体の内容と概要
コンピュータ室にて、VectorWorksの主に2次元作図操作の演習を行う。店舗併用住宅の設計課題に取り組み、自由に作図できるようにVectorWorksを習得する。

授業の方法
コンピュータ室にて、VectorWorksの作図操作画面を大型ディスプレイに表示しながら説明し、学生に操作方法を修得してもらう。作図操作に慣れたら、木造またはRC造の設計課題を提示し、まずはエスキスを作成させる。個別にプレゼンしてもらい、それに対して確認と修正指導を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業はコンピュータ室を使うので座席指定をします。USBメモリーは持参すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
VectorWorksを用いて表現ができる。	VectorWorksを用いて、的確で美しい表現が完璧にできた。	VectorWorksを用いて、的確で美しい表現が8割方できた。	VectorWorksを用いて、的確で美しい表現がほぼ6割方できた。	VectorWorksを用いて、表現ができた。	VectorWorksを用いて、表現ができなかった。
CADを用いて相手に伝わるプレゼンテーションができる。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが完璧にできた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが8割方できた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションがほぼ6割方できた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができなかった。
複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が完璧にできた。	複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が8割方できた。	複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができた。	複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『10日でマスター! VECTORWORKS (Ver. 2018/2017対応)』	山川佳伸	エクスマレッジ	2018	9784767825199	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322037)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。作品紹介とCAD演習の復習テスト	CADの振り返り(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	線の描画, 加工, 編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	図形の描画, 加工, 編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	レイヤ・クラス	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	属性・グループ	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	配置図・平面図の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	立面図・断面図の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	矩計図・詳細図の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	併用住宅設計課題の説明	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	プランニングチェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	エスキスチェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	配置図・平面図の作図チェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	立面図・断面図の作図チェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	矩計図・詳細図の作図チェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	プロッタ(大型プリンタ)による図面印刷と講評	プレゼンテーション準備(45分)	感想レポート提出(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング: PHY322044)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
物理現象の本質を理解するため、物体の運動状態を的確に表現するために必要となる知識と記述方法を学び、静力学や運動状態に対して物理学的にアプローチする方法を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ベクトル量の基本演算を理解しており、外力の影響がある場合の物体の運動状態について説明できる。また、固体にかかる力のつり合いの式を立てることができる。

授業全体の内容と概要
主に物体の運動と固体のつり合いについて扱う。物体の状態を表現するため、さまざまな物理量やベクトルの演算を学習する。また、ニュートンの運動3法則を理解し、物体の運動状態を把握するのに3法則がどのように関わっているのかを学習する。個体のつり合い問題については、力のモーメントを理解し、つり合いの式を立てられるように学習する。さらに演習問題を随時出題し、応用力を身につける。

授業の方法
授業は、板書とパワーポイントおよび配付資料で実施する。授業中に提示する演習問題は、まず個人で考え、次にグループワークを行い、考えを発表してもらう。理解程度を確認した後、授業内で解説を行う。授業の最後には授業の「ふりかえり」レポートを提出する。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・A4版ポケットタイプのファイルとノートを毎回持参すること。 ・授業中には授業に関係のあることだけをすること。 ・遅刻・欠席をしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。

資格指定科目
教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	20%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	20%	0%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ベクトル演算についての理解</td> <td>複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。</td> <td>物体に加わっている複数の力ベクトルの総和ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。</td> <td>ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。</td> <td>2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。</td> <td>2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>ニュートンの運動3法則についての理解</td> <td>演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。</td> <td>簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。</td> <td>運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。</td> <td>物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。</td> <td>物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>固体のつり合いについての理解</td> <td>重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。</td> <td>複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。</td> <td>力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。</td> <td>力のつり合いの式を立てることができた。</td> <td>力のつり合いの式を立てることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの総和ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。	ニュートンの運動3法則についての理解	演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。	固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの総和ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。																								
ニュートンの運動3法則についての理解	演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。																								
固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適時、資料配付。』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適時、資料配付。』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適時、資料配付。』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング: PHY322044)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを熟読し、学習内容全般を理解する(90分)	授業内容を復習する(90分)
2	ベクトルの大きさや表記について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
3	ベクトルの合成・分解と作図法	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
4	ニュートンの運動第1法則	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
5	慣性系について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
6	ニュートンの運動第2法則と第3法則	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
7	ケプラーの法則について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
8	加速度運動問題についての討論	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
9	地球スケールの運動についての討論	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
10	質点の力のつり合い問題	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
11	力のモーメントと固体のつり合い	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
12	力のモーメントの計算	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
13	重心まわりのつり合い	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
14	固体のつり合い問題について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習する(90分)
15	まとめと演習	これまでの授業内容についての質問をまとめる(90分)	授業内容を復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	試験範囲を復習する(90分)	試験内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング: MAT322043)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	学生が微分積分の基礎知識を養う力を身につける。												
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	基本的な数学の知識から学び、微分積分の基礎知識までを修得する。さらに、それらのことを通して、答えだけではなく、計算過程(思考過程の説明)も大切であることを理解し、習慣づけることができる。												
授業全体の内容と概要	数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・一次関数・極限値、導関数、微分法の公式、べき・三角関数・指数関数・対数関数などの微分、不定積分、置換積分法、部分積分法など、豊富な練習問題を計算することによって、微分積分の知識の定着を図る。												
授業の方法	授業は、板書及び配布資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。また、課題及び演習の解答は時間内に行うようにする。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>〇 双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	講義内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。予習・復習を怠らないこと。授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。												
資格指定科目	教職課程(工業)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件	11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	70%	0%	20%	0%	10%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
微分積分の基礎知識の修得	極限及び微分積分の基礎知識が100%理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が90%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が80%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が70%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が70%も理解できなかった。
計算過程(思考過程の説明)の習慣化	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を70%も記述したレポートにならなかった。
微分積分を学ぶために必要な基礎数学の知識の修得	基礎数学の知識が100%理解できた。	基礎数学の知識が90%以上理解できた。	基礎数学の知識が80%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%も理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング: MAT322043)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	整数と計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	展開・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	平方根・一次関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	極限值・連続関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	導関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	べきの微分	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	微分法の公式1(極限值)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	微分法の公式2(導関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	初等関数の微分1(三角関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	初等関数の微分2(指数関数・対数関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	不定積分1(原始関数と不定積分)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	不定積分2(初等関数の積分)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	まとめ	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数 (科目ナンバリング: MAT321042)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学生が建築士受験に必要な数学の基礎知識をしっかりと身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
建築士試験に必要な数学の基礎知識である計算力、単位・方程式、三角関数、因数分解及び図形を修得する。さらに、それらのことを通して、数学において重要なものは答えだけではなく、思考過程であることも理解し、習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要
数の計算から始まり、負の数・平方・立方・分数・小数・単位・方程式・連立方程式・比例式・三角関数・展開公式・因数分解・指数・図形の辺の長さ及び面積などを練習問題を計算する及び学生にプレゼンテーションさせることによって、数学の問題を解く実感をつかむ。

授業の方法
授業は、板書及び配布資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。課題及び演習の解答は時間内に行うようにし、学生にプレゼンテーションも行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
講義内容を十分に理解するための予習・復習を怠らず、講義や演習に対して積極的に取り組むこと。授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	20%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	20%	0%	10%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎知識の修得</td> <td>計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。</td> <td>計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%以上理解できた。</td> <td>計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%以上理解できた。</td> <td>計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%以上理解できた。</td> <td>計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>計算過程(思考過程の説明)の習慣化</td> <td>演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。</td> <td>演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。</td> <td>演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。</td> <td>演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。</td> <td>演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考過程能力の向上</td> <td>プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。</td> <td>プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。</td> <td>プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来た。</td> <td>プレゼンテーションを通して、一部筋道の立った思考過程が出来た。</td> <td>プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来なかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	基礎知識の修得	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。	計算過程(思考過程の説明)の習慣化	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。	思考過程能力の向上	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、一部筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来なかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
基礎知識の修得	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。																																				
計算過程(思考過程の説明)の習慣化	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。																																				
思考過程能力の向上	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、一部筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来なかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適時資料配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適時資料配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適時資料配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数 (科目ナンバリング: MAT321042)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	四則計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	負の数の計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	平方・立法	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	分数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	小数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	単位	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	連立方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	比例式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	三角関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	展開公式・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	指数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	図形の辺の長さや面積	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	まとめ	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	くらしと景観 (科目ナンバリング: AEN322048)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
身の回りの生活環境や地域の景観を考慮したまちづくりをするために、景観法について理解し、まちの景観デザインを多面的に学ぶ。さらに、景観とはみるものであり、デザインするものであるため、みる力・デザインする力を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
人と建築をとりまく環境・景観について関心を持ち、景観法の概要を説明できる。また、景観問題や景観デザインについて多角的視点をもって教員や仲間と議論ができ、発表できる。

授業全体の内容と概要
景観法についての概要と良好な景観の保全と創出について学ぶ。また、ヴィジュアルテキスト(写真)の読解活動や景観デザイン制作を通して景観まちづくりへの理解を深め、みる力・デザインする力を育てる。さらに、制作した景観デザインの発表を個人やグループで行い、周りからの講評も聞くなど、さまざまな視点の考え方や表現方法について理解する。

授業の方法
授業は、パワーポイントおよび配付資料で実施する。景観法については資料を用いて講義形式で行う。ヴィジュアルテキストの読解活動は個人またはグループワークで行う。景観デザイン制作も個人またはグループワークで行い、それぞれ発表会も行う。授業の最後には授業の「ふりかえり」レポートを提出する。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ A4版ポケットタイプのファイルとノートを毎回持参すること。 ・ 授業中には授業に関係のあることだけをすること。 ・ 遅刻・欠席をしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>30%</td> <td>20%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	30%	20%	40%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
30%	20%	40%	0%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>景観法の理解</td> <td>景観まちづくりの重要ポイントを理解し、住民がまちづくりに参加するための様々な方法を理解できた。</td> <td>景観まちづくりにおける住民・行政・企業のそれぞれの役割と協働のあり方について理解できた。</td> <td>景観行政団体や景観計画について理解することができた。</td> <td>景観法の目的や基本理念について理解できた。</td> <td>景観法の目的や基本理念について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>ヴィジュアルテキストの読解活動</td> <td>ヴィジュアルテキストを読み解くための変換・要素関連付け活動だけでなく、外挿による作品づくりができた。</td> <td>いくつかの変換活動から要素関連付け活動を行うことができた。</td> <td>ヴィジュアルテキストより抽出した要素から、ヴィジュアルテキストを読み解くために必要な変換活動ができた。</td> <td>ヴィジュアルテキストにある複数の要素を抽出することができた。</td> <td>ヴィジュアルテキストにある要素を抽出できなかった。</td> </tr> <tr> <td>景観デザイン作品の制作</td> <td>自分の課題作品についての特徴を分かりやすく説明できただけでなく、他人の作品についても独自の解釈で解説することができた。</td> <td>他人の作品発表において、作品の良い点を適切にコメントすることができた。</td> <td>自分の作品の特徴や見どころを、他人に伝わるようにプレゼンテーションすることができた。</td> <td>景観デザイン作品を完成させて提出することができた。</td> <td>景観デザイン作品を提出できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	景観法の理解	景観まちづくりの重要ポイントを理解し、住民がまちづくりに参加するための様々な方法を理解できた。	景観まちづくりにおける住民・行政・企業のそれぞれの役割と協働のあり方について理解できた。	景観行政団体や景観計画について理解することができた。	景観法の目的や基本理念について理解できた。	景観法の目的や基本理念について理解できなかった。	ヴィジュアルテキストの読解活動	ヴィジュアルテキストを読み解くための変換・要素関連付け活動だけでなく、外挿による作品づくりができた。	いくつかの変換活動から要素関連付け活動を行うことができた。	ヴィジュアルテキストより抽出した要素から、ヴィジュアルテキストを読み解くために必要な変換活動ができた。	ヴィジュアルテキストにある複数の要素を抽出することができた。	ヴィジュアルテキストにある要素を抽出できなかった。	景観デザイン作品の制作	自分の課題作品についての特徴を分かりやすく説明できただけでなく、他人の作品についても独自の解釈で解説することができた。	他人の作品発表において、作品の良い点を適切にコメントすることができた。	自分の作品の特徴や見どころを、他人に伝わるようにプレゼンテーションすることができた。	景観デザイン作品を完成させて提出することができた。	景観デザイン作品を提出できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
景観法の理解	景観まちづくりの重要ポイントを理解し、住民がまちづくりに参加するための様々な方法を理解できた。	景観まちづくりにおける住民・行政・企業のそれぞれの役割と協働のあり方について理解できた。	景観行政団体や景観計画について理解することができた。	景観法の目的や基本理念について理解できた。	景観法の目的や基本理念について理解できなかった。																								
ヴィジュアルテキストの読解活動	ヴィジュアルテキストを読み解くための変換・要素関連付け活動だけでなく、外挿による作品づくりができた。	いくつかの変換活動から要素関連付け活動を行うことができた。	ヴィジュアルテキストより抽出した要素から、ヴィジュアルテキストを読み解くために必要な変換活動ができた。	ヴィジュアルテキストにある複数の要素を抽出することができた。	ヴィジュアルテキストにある要素を抽出できなかった。																								
景観デザイン作品の制作	自分の課題作品についての特徴を分かりやすく説明できただけでなく、他人の作品についても独自の解釈で解説することができた。	他人の作品発表において、作品の良い点を適切にコメントすることができた。	自分の作品の特徴や見どころを、他人に伝わるようにプレゼンテーションすることができた。	景観デザイン作品を完成させて提出することができた。	景観デザイン作品を提出できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適時、資料配付。』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適時、資料配付。』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適時、資料配付。』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	くらしと景観 (科目ナンバリング: AEN322048)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/ビジュアルテキストの読解活動練習/景観法第1条	シラバスを熟読し、学習内容全般を理解する(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
2	商店街写真の読解活動/景観アイテムの寄付行為について	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
3	景観法第2条/景観作品の制作	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
4	景観作品の発表	作品発表の準備をする(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
5	外挿活動による景観作品の発展	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
6	発展させた景観作品の完成	指定した事項を行う(90分)	指定した課題を行う(90分)
7	保全を考えた景観アイテムのデザイン制作	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
8	制作した景観アイテムデザインの発表	作品発表の準備をする(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
9	景観アイテムのビジュアルテキスト読解活動1/景観法第3条	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
10	景観アイテムのビジュアルテキスト読解活動2	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
11	景観アイテムのビジュアルテキスト読解活動3/景観法第7条	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
12	産業景観について	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
13	公園とまちづくり1/景観法第8条	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
14	公園とまちづくり2	今回のテーマ内容を調べる(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
15	身近な景観例の発表	発表の準備をする(90分)	授業内容を復習しまとめる(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	試験範囲を復習する(90分)	試験内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論(A) (科目ナンバリング: DES322062)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校に勤務し、学校のデザイン業務全般を担当した実務経験。またフリーランスで行ったグラフィックデザインの実務経験を元に、デザインの概論について講義を行う。		

概要

履修目標	デザインにおける基礎的な知識・技術の概要を修得し、デザインへの見識を深める。												
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、表現することができる。 デザインの基礎的な知識を元に、デザインについて考察を述べることができる。												
授業全体の内容と概要	グラフィックデザインを中心に、課題を通して手を動かしながら学ぶ。												
授業の方法	授業はパワーポイント及び配布物資料で講義を行った後、講義内容の理解を深めるために課題制作の時間を設け、課題発表及び講評会を実施する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	出席を重視し、レポート・課題作品において評価する。												
資格指定科目	教職課程科目(美術・工芸)の選択必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	20%	40%	0%	0%	40%

ルーブリック	評価基準					
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
デザインの基礎的な知識・技術の理解	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、完成度の高い作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、良質な作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題の一部に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。	
課題発表	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を論理的かつ明確に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を論理的に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を適切に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を大まかに述べることができた。	課題について、制作意図を述べることができなかった。	
デザインについての考察(レポート)	デザインについて、知識を元に自分の考えを理論立てて、多様な観点から記述することができた。	デザインについて、知識を元に自分の考えを理論立てて記述することができた。	デザインについて、知識を元にある程度自分の考えを記述することができた。	デザインについて自分の考えを記述することができた。	デザインについて記述できなかった。	

教科書・参考文献・資料等

教科書							
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	
1							
2							
3							
4							
5							

参考文献・資料等							
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	
1							
2							
3							
4							
5							

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論(A) (科目ナンバリング: DES322062)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 高等学校に勤務し、学校のデザイン業務全般を担当した実務経験、またフリーランスで行ったグラフィックデザインの実務経験を元に、デザインの概論について講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読むこと(90分)	デザインの定義について調べておくこと(90分)
2	デザインとは何か	デザインとは何かについて考察しておくこと(90分)	デザインとは何かについて理解を深めておくこと(90分)
3	タイポグラフィ	タイポグラフィとは何か調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
4	タイポグラフィ	タイポグラフィとは何か調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
5	タイポグラフィ	タイポグラフィの作品コンセプトをまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
6	タイポグラフィ	書体について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
7	タイポグラフィ	書体について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
8	タイポグラフィ	タイポグラフィの知識をまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
9	タイポグラフィ	タイポグラフィの知識をまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
10	印刷とデザイン	印刷について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
11	印刷とデザイン	印刷について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
12	紙とデザイン	紙とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
13	紙とデザイン	紙とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
14	本とデザイン	本とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
15	本とデザイン	本のデザインについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
16	レポートに対するフィードバック	レポート発表の準備をしておくこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322052)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
前半は、建築の正面(ファサード)に限定したデザイン能力を養う課題と各種建築図面を用いて彩色・配色する能力を養う課題に取り組む。後半は、この前半の内容を統合させた課題に取り組むことで、建築のトータルデザイン能力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを考慮し、どのように表現するかが求められる。各シリーズとも3課題ごとに講評会を実施するが、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要
各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題制作は、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>85%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	85%	0%	0%	15%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	85%	0%	0%	15%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。</td> <td>非常に優れた構想力と表現力を身に付けることができた。</td> <td>優れた構想力と表現力を身に付けることができた。</td> <td>優れた表現力を身に付けることができた。</td> <td>おおむね表現できる力を身に付けることができた。</td> <td>作品を作成しなかったやめ表現できる力を身に付けることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>講評会をとおり、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を修得する。</td> <td>自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ、他人の作品への評価ができた。</td> <td>自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。</td> <td>自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。</td> <td>自己の作品のプレゼンをすることができた。</td> <td>講評会に出席しなかったため、プレゼンをすることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築の重要な要素である正面(ファサード)に対し、形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。</td> <td>配色・彩色できる非常に優れた力を身に付けることができた。</td> <td>配色・彩色できる優れた力を身に付けることができた。</td> <td>配色できる優れた力を身に付けることができた。</td> <td>おおむね配色表現できる力を身に付けることができた。</td> <td>作品を制作しなかったため表現できる力を身に付けることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身に付けることができた。	優れた構想力と表現力を身に付けることができた。	優れた表現力を身に付けることができた。	おおむね表現できる力を身に付けることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身に付けることができなかった。	講評会をとおり、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ、他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため、プレゼンをすることができなかった。	建築の重要な要素である正面(ファサード)に対し、形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身に付けることができた。	配色・彩色できる優れた力を身に付けることができた。	配色できる優れた力を身に付けることができた。	おおむね配色表現できる力を身に付けることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身に付けることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身に付けることができた。	優れた構想力と表現力を身に付けることができた。	優れた表現力を身に付けることができた。	おおむね表現できる力を身に付けることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身に付けることができなかった。																								
講評会をとおり、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ、他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため、プレゼンをすることができなかった。																								
建築の重要な要素である正面(ファサード)に対し、形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身に付けることができた。	配色・彩色できる優れた力を身に付けることができた。	配色できる優れた力を身に付けることができた。	おおむね配色表現できる力を身に付けることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身に付けることができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322052)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	ファサードデザイン1(商業建築)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
3	ファサードデザイン2(住宅)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	ファサードデザイン3(住宅)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(ファサードデザイン)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	色彩表現のための道具と材料の説明	配布資料の確認(45分)	追加作業(45分)
7	色彩1(街区・配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	色彩2(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
9	色彩3(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	講評会(色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
11	彩色によるファサードデザインのねらい	配布資料の確認(45分)	授業の振り返り(45分)
12	ファサードデザイン+色彩1	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	ファサードデザイン+色彩2	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	ファサードデザイン+色彩3	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(ファサードデザイン+色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322053)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
前半では、建築図面の基礎的立体表現として陰影とアークメソッドの課題に、後半ではこれらの手法を統合させた課題に取り組む。立体表現の課題では基本的技術を習得し、応用課題では表現の多様性を理解するとともに実践し技術を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
立体表現の基礎技術力ならびに応用力を養うとともに、表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要
各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題制作、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>85%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	85%	0%	0%	15%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	85%	0%	0%	15%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と、可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。</td> <td>基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。</td> <td>立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身に付けようとする姿勢がみられた。</td> <td>立体表現の基礎技術を身に付けることができた。</td> <td>立体表現の基礎技術をおおむね身に付けることができた。</td> <td>立体表現の基礎技術を身に付けることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解する。</td> <td>対象以外の建築にも興味を持ち、建築作品、設計者について進んで調べることができた。</td> <td>対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。</td> <td>建築作品ならびに設計者について理解できた。</td> <td>建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。</td> <td>建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>講評会を通して、自分の作品及び他社の作品に対する批評をもとに作品を客観視する力を修得する。</td> <td>自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し、改善点について検討することができた。</td> <td>自己の作品に対する評価を理解し、改善点について検討することができた。</td> <td>自己の作品に対する評価を理解できた。</td> <td>自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。</td> <td>自己の作品に対する評価を理解することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と、可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身に付けようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身に付けることができた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができなかった。	表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち、建築作品、設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。	講評会を通して、自分の作品及び他社の作品に対する批評をもとに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と、可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身に付けようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身に付けることができた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができなかった。																								
表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち、建築作品、設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。																								
講評会を通して、自分の作品及び他社の作品に対する批評をもとに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322053)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・講師)	研究室所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	陰影表現1(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
3	陰影表現2(配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	陰影表現3(断面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(立面図・配置図・断面図)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
6	アクソノメトリクスの図法解説	授業資料の確認(45分)	授業資料の復習(45分)
7	アクソノメトリクスの表現1(外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	アクソノメトリクスの表現2(内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
9	アクソノメトリクスの表現3(外観+内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	講評会(アクソノメトリクス 外観・内観)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
11	可塑的素材を使用した模型の説明と制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	一消点図法(内観表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	二消点図法(外観表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(可塑的素材を使用した模型、透視図)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
16	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE322071)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標						
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE322071)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE3220072)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE3220072)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323018)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

概要

履修目標
卒業制作を念頭におき、課題としての公共の大規模建築の設計・計画・作図を学ぶ。建築設計演習での学びを応用し、土地、地域、利用者、建物の規模などをもとに、計画を行い、必要な図面の作図と、プレゼンテーションとしての必要情報などの表現方法を学ぶ。

授業の位置づけ
「建築学科」のDP「1(1)、(2)、(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
大規模建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要
施設計画の基本を学ぶとともに今日の問題点を理解し、今後のあり方を提案する。したがって、中間指導では各自が考えてきたフロアダイアグラムやエスキスをともに議論と指導の後、図面作成となる。発表・講評を行い、多様な考えと提案を理解する。

授業の方法
授業では、板書しながら詳細図もとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては講評することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
原則毎回出席すること(ただし最低出席回数11回以上)とし、積極的に課題に取り組むこと。決められた中間指導やエスキスチェックを受け、2つの課題が期限内提出され、講評を受けることが条件となる。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築関係法規に則った計画ができていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	大規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。	建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。	設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。	初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
大規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『コンパクト建築設計資料集成 第3版』日本建築学会編。</td> <td>日 村田誠四郎</td> <td>丸善株式会社</td> <td>2005</td> <td>9784621075098</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『コンパクト建築設計資料集成 第3版』日本建築学会編。	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『コンパクト建築設計資料集成 第3版』日本建築学会編。	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』</td> <td>中山 繁信</td> <td>オーム社</td> <td>2016</td> <td>9784274218828</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323018)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方	シラバスを読んでおくこと(90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	即日課題1 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのコンセプトの考え方	即日課題について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
3	即日課題2 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのソーシングと動線の考え方	即日課題について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	即日課題3 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのスケルトン、インフィルの考え方	即日課題について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	即日課題4 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのランドスケープの考え方	即日課題について考えをまとめる(90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
6	設計課題 集合住宅と高齢者施設の複合建築物の計画(課題説明)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
7	中間指導 コンセプトについて	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
8	中間指導 コンセプトと全体計画(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
9	中間指導 全体計画とランドスケープ(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
10	中間指導 ランドスケープと平面計画(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
11	中間指導 平面計画と断面構成(エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
12	中間指導 平面計画と断面構成(ダイアグラムについて)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
13	中間指導 模型とプレゼンテーション(模型の造り方 レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
14	中間指導 プレゼンテーション(レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する(90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと(90分)	他の学生の発表内容をまとめる(90分)
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと(90分)	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	北国の建築と住まい (科目ナンバリング: APT321035)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
北国の建築と住まいは、積雪寒冷という気候条件から多くの制約を受けるため、それに対応すべく工夫と技術を生み出してきた。その一方で、美しい四季の変化と息みを取り入れることも忘れることはなかった。この授業では、先達の恩恵をどのように受け継ぎ発展させてきたのか、これからの住まいと住宅地に求められるものは何かを理解し、北国の住宅設計の基本と応用に係る知識を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(4)」に対応する。

到達目標
北国の住宅の多様さを知り、設計・デザインする手法と技術を学び、これからの住まいのあり方と設計手法を修得できる。また、北国の建築や住宅の見学と観察から現状と問題点を探ることができる。

授業全体の内容と概要
毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが、授業のポイントが演習問題として課せられるので、集中して聴くことが求められる。板書すべき事項は授業資料に記載され、プロジェクターで事例の画像や図表を投影して解説する。

授業の方法
毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが、授業のポイントが演習問題として課せられるので、集中して聴くこと、メモを取ることが求められる。演習2は、提出後に講評を記述し返却する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅列者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
毎回の授業で行われる演習を小テストと位置付け、その評価点(平常点)と見学レポート(20点満点)、および研究成果発表(20点満点)によって単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	0%	60%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北国の建築と住まいが積雪寒冷という気候条件からどのような制約を受けているのかを理解する。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいや建築への制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいへの制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約をおおむね理解できた。	気候条件の制約を理解することができなかった。
北国の住宅が自然環境に対してどのように対応しているかを設計・デザインの手法と技術の面から理解する。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画され、その過程に多くの技術改良がなされたことを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画されていることを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインをおおむね理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解することができなかった。
北国の建築や住宅を見学し観察することから環境に対する工夫や対処方法を理解し、問題点を見つけ出す。	北国の建築に対するさまざまな工夫を理解することができ、実物の建築の観察から再確認し問題点を指摘することができた。	北国の建築の工夫や対処方法を理解し、実物の建築の観察から再確認することができた。	実物の建築から、北国の建築の工夫していることを理解できた。	建築や住宅の見学に参加することができた。	建築や住宅の見学に参加することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	北国の建築と住まい (科目ナンバリング: APT321035)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 「北国の建築と住まい」で学ぶこと 北国の定義、北海道の歴史のあらまし	シラバスの事前確認(90分)	配布資料の見直し(90分)
2	北国の建築(1) 開拓使の建築-1 北海道庁旧本庁舎、豊平館他	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
3	北国の建築(2) 開拓使の建築-2 北大第2農場、時計台他	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
4	北国の建築(3) 現代の建築-1 サッポロファクトリー、札幌ドーム他	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
5	北国の建築の見学 北国の建築の名作をみる	見学資料の予習(90分)	見学レポート作成(90分)
6	総合演習#1 「北国の建築を観て」発表会	見学資料の確認(90分)	演習2作成(90分)
7	北海道の住まいの歴史 先住民の住まい、開拓者の住まい、洋風意匠、炭坑住宅、駅通	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
8	北海道の住宅建築を拓いた建築家 マックス・ヒンデルと田上義也	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
9	北海道の住宅が生み出した住様式 母村文化の継承・定着・変化、防寒住宅、暖房機器の変遷	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
10	北国の住まいの計画(1) 暖かく住む 寒冷地の居住環境条件、暖房・気密・断熱	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
11	北国の住まいの計画(2) 雪と共に暮らす 除・排雪、屋根のかたちと積雪、雪と周縁空間	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
12	北国の住まいの計画(3) 寒冷地住宅の間取り 暖房室と非暖房室、開放性と閉鎖性	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
13	北国の住まいの計画(4) 北国の集合住宅 コンパクトシティ 集まって住む北国のメリット	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
14	北国の住まいの見学 北国の住宅の見学	見学資料の予習(90分)	見学レポート作成(90分)
15	総合演習#2 「北国の住まいを観て」発表会	見学資料の確認(90分)	演習2作成(90分)
16	総評(小テストの結果と課題・発表の講評と解説)	提出課題再確認(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN323023)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
外界の厳しい自然環境から人間生活を護り、快適な室内環境を実現するために、「建築環境」の内容に引き続き、建築伝熱、建築音響、湿気・結露の物理的基礎、及びその建築計画上の方法を理解する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
建築計画上の物理的基礎として、熱費流の3つの過程、音波の基本的性質や音の強さ、湿り空気の性質を理解できる。

授業全体の内容と概要
室内と外部の温度、室内の湿り空気や結露問題、音波の性質や吸音・遮音について、その基礎的取扱いからその建築計画上の方法までを学ぶ。さらに演習問題を通して理解を深める。

授業の方法
授業は、パワーポイントおよび配付資料で実施する。授業の最後には授業の「ふりかえり」レポートを提出する。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・A4版ポケットタイプのファイルとノートを毎回持参すること。 ・授業中には授業に関係のあることだけをする。 ・遅刻・欠席をしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>45%</td> <td>15%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	45%	15%	40%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
45%	15%	40%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築伝熱の理解</td> <td>外気から室内までの熱費流抵抗と熱費流量を計算できた。</td> <td>熱費流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。</td> <td>熱費流率と熱伝達率、熱費流率の関係を理解できた。</td> <td>熱費流の3つの過程を理解できた。</td> <td>熱費流の3つの過程を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築音響の理解</td> <td>音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。</td> <td>吸音材料と吸音構造について理解できた。</td> <td>吸音や遮音の考え方について理解できた。</td> <td>音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。</td> <td>音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>湿気と結露の理解</td> <td>表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。</td> <td>室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。</td> <td>空気線図の見方を理解できた。</td> <td>相対湿度と絶対湿度について理解できた。</td> <td>相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	建築伝熱の理解	外気から室内までの熱費流抵抗と熱費流量を計算できた。	熱費流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱費流率と熱伝達率、熱費流率の関係を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できなかった。	建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。	湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
建築伝熱の理解	外気から室内までの熱費流抵抗と熱費流量を計算できた。	熱費流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱費流率と熱伝達率、熱費流率の関係を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できなかった。																																				
建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。																																				
湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『最新建築環境工学 改定4版』</td> <td>田中俊六</td> <td>井上書院</td> <td>2014</td> <td>9784753017577</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『最新建築環境工学 改定4版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『最新建築環境工学 改定4版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適時、資料配付。』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適時、資料配付。』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適時、資料配付。』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN323023)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを熟読し、学習内容全般を理解する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
2	熱環境 - 1 伝熱の基礎 熱エネルギーの流れ	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
3	熱環境 - 2 固体中の熱伝導・熱伝達と熱貫流	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
4	熱環境 - 3 熱伝導率や熱伝達率と熱貫流率の関係	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
5	熱環境 - 4 熱貫流量の計算	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
6	熱環境 - 5 建物外表面の熱授受と熱損失評価	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
7	音環境 - 1 音の性質と伝播、音の表し方と単位、音の大きさと聴感	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
8	音環境 - 2 室内音響 室内音響計画、室内音響の評価、室内音響設計	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
9	音環境 - 3 壁・床の遮音対策、音響透過損失	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
10	音環境 - 4 建築音響の材料と構造	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
11	音環境 - 5 騒音とその防止 騒音の測定と評価、騒音の伝播、騒音防止計画	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
12	湿気と結露 - 1 湿り空気、露点温度と結露、空気線図	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
13	湿気と結露 - 2 壁の透湿と結露、定常透湿計算	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
14	湿気と結露 - 3 表面結露と内部結露、断熱と温度・湿度の関係	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認する(90分)
15	湿気と結露 - 4 結露の発生と防止対策	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、定期試験に備える(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	試験範囲を復習する(90分)	授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM323025)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

社会で建築されている建築物のほとんどは不静定構造物であり、これらの実構造物の基本となるのが、力学である。「建築構造力学」では、静定構造物の知識を基礎に不静定構造物の解法の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標

簡単な不静定構造物の合理的かつ経済的な設計ができる。
梁の変形、応力法、変位法について説明できる。

授業全体の内容と概要

「建築構造力学」の知識を基礎に、一級建築士レベルの不静定構造物の解法について修得する。

授業の方法

授業は配布物と板書を中心に講義形式で行う。授業では、講義と問題・解説を交えた内容とする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前に配布した資料は必ず持参のこと。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
梁の変形について修得する。	変形について簡単に説明できた。	曲げについて簡単に説明できた。	曲げについてほぼ簡単に説明できた。	曲げについて説明できた。	曲げについて簡単に説明できなかった。
応力法について修得する。	応力法をトラスやラーメンに応用することができた。	静定梁および不静定梁について簡単に説明できた。	静定梁および不静定梁についてほぼ簡単に説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁については説明できなかった。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁について簡単に説明できなかった。
変位法について修得する。	変位法を理解し、不静定梁を解くことができた。	変位法を簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築構造テキスト』		日建学院	2020		
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM323025)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明	シラバス資料を確認して、構造力学の復習を行う。(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
2	静定構造物と不静定構造物との違いの説明	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
3	静定構造物と不静定構造物との違いの説明	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
4	不静定構造物の判別式	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
5	応力度と許容応力度	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
6	部材の変形(ひずみ・座屈・たわみ・たわみ角)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
7	モールの定理	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
8	マックスウェルの相反定理・ラーメンの変形	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
9	不静定構造物の応力(重ね合わせの原理)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
10	不静定ラーメン(分割・到達モーメント)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
11	固定モーメント法	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
12	ラーメンの水平変位と水平剛性	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
13	固有周期(振動)のメカニズム	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
14	加速度応答スペクトル	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
15	崩壊メカニズム(仮想仕事の原理)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	全体内容の再確認及び理解(90分)	試験内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング: BSM323027)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)		研究室所在	アトリエ棟 1階	
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

概要

履修目標															
鉄筋コンクリート構造は鉄とコンクリートからなる一種の複合構造物である。鉄筋コンクリート構造の仕組みとそれを構成する部材断面の設計方法を修得する。力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面設計方法を学習する。															
授業の位置づけ															
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。															
到達目標															
鋼材とコンクリート材料をどのように活かしているかを把握した上で、鉄筋コンクリート構造の構造計画、許容応力度設計法などの基本的な設計原理を修得する。鉄筋コンクリート構造の仕組み・名称・規準などが理解できる。軸力や曲げを受ける部材の性状を理解し、各部材断面の設計ができる。															
授業全体の内容と概要															
鉄筋コンクリート構造の概要・構造形式・規準などを学び、許容応力度設計法、梁・柱・スラブなどの各部材の断面設計を中心に講義・演習を行う。															
授業の方法															
授業は教科書を中心にパワーポイント及び配布資料で講義形式で行う。また構造設計例題を参考にして演習課題を実施して理解を深める。フィードバックとして課題の解説を行う。															
アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											
履修上の注意事項															
講義内容を要領よくまとめ、ノート整理を欠かさないこと。講義には設計演習等を頻繁に実施するので、必ず電卓を持参すること。															
資格指定科目															
教職課程(工業)選択科目, 建築士試験受験資格課程選択科目															

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	30%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鉄筋コンクリート構造の概要	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明でき、他人に正確に説明できた。	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明できた。	RC構造の特徴について説明でき、他人に説明できた。	RC構造の特徴について説明できた。	RC構造の特徴について説明できなかった。
鉄筋コンクリート構造の構成と力学	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明でき、他人に説明できた。	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明できた。	許容応力度設計法について説明でき、他人に説明できた。	許容応力度設計法について説明できた。	許容応力度設計法について説明できなかった。
鉄筋コンクリート部材の設計演習	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の設計について説明でき、演習問題を正確に解くことができ、他人に説明できた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の設計について説明でき、演習問題を正確に解くことができた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の設計について説明でき、基本的な演習問題を解くことができ、他人に説明できた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の設計について説明でき、基本的な演習問題を解くことができた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の設計について説明でき、基本的な演習問題を解くことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造設計』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『RC規準による鉄筋コンクリートの構造設計』	佐藤立美・荒木秀夫・森村毅	鹿島出版会			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング: BSM323027)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 鉄筋コンクリート構造の概論	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
2	鉄筋コンクリート構造の歴史・特徴	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
3	構造形式、規準等	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
4	鉄筋・コンクリートの機械的性質	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
5	許容応力度設計法(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
6	許容応力度設計法(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
7	RC部材の複合材料力学	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
8	梁の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
9	梁の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
10	柱の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
11	柱の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
12	床(スラブ)の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
13	床(スラブ)の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
14	構造計画・地震と建物の構造(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
15	構造計画・地震と建物の構造(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説する。	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング: BSM323028)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

概要

履修目標
構造用鋼から圧延された鋼板および各種の形鋼を高力ボルトや溶接などの接合手段によって組み上げた構造または建築物を鉄骨構造という。鉄骨構造建築物の柱、梁、継手、柱梁接合部、柱脚などの断面設計法について例題を通して修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
鋼材の種類と記号を学び、引張材、圧縮材など部材設計の基本事項を修得し、簡単な計算例を通してボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計ができる。

授業全体の内容と概要
鋼材の種類と記号を学び、設計荷重、鋼材の許容応力度、ボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計法を中心に講義・演習を中心に行う。また、引張材、圧縮材など部材設計の基本についても講義・演習を行う。

授業の方法
授業は配布物と板書を中心に講義形式で行う。授業では、課題解説・演習等をおり交ぜて行うが、基本的に予習課題を事前学修し重要箇所について確認しながら進めていく。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
毎回出席しなければ、分からなくなるので注意する。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目、建築士試験受験資格課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鋼材の種類と記号	鉄骨構造・鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴をほぼ簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できなかった。
引張材、圧縮材など部材設計の基本事項	引張材、圧縮材、曲げ材などの許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度についてほぼ簡単に説明できた。	許容応力度について説明できた。	許容応力度について簡単に説明できなかった。
設計荷重、鋼材の許容応力度、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計	複雑な接合設計について簡単に説明できた。	接合設計について簡単に説明できた。	接合設計についてほぼ簡単に説明できた。	接合設計について説明できた。	接合設計について簡単に説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識(第三版)』	橋本篤秀	市ヶ谷出版社	2016	9784870711563	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング: BSM323028)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 鋼構造の概要	シラバスを確認する(90分)	授業内容の復習(90分)
2	鋼材の記号	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
3	荷重の種類	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
4	鋼材の許容応力度	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
5	ボルト接合1(ボルトの種類)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
6	ボルト接合2(縁端距離,許容耐力)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
7	ボルト接合3(組合せ応力)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
8	高力ボルト接合1(高力ボルトの種類)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
9	高力ボルト接合2(許容耐力)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
10	高力ボルト接合3(組合せ応力)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
11	溶接接合1(溶接の種類)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
12	溶接接合2(許容耐力)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
13	溶接接合3(組合せ応力)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
14	引張材(有効断面積)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
15	圧縮材(座屈)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
16	60分の試験終了後,残りの30分で解説	全体内容の再確認及び理解(90分)	試験内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング: BSM323029)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築生産に必要な内外装工事や施工管理およびそれに至る工事契約や積算について理解を深め、また、建築士試験の施工および建築施工管理技士試験に対応した学力の修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
建築施工に重要な各工事に着目し生産技術を学ぶことで、設計や施工の実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要
配布資料を中心に授業を行い、建築士試験に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験の過去問題を提供していくことで、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法
配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
配布資料を必ず持参すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上とし、満たさない場合は履修を中止する。中間テストは模擬試験として評価対象とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	30%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築生産」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築施工テキスト』		日建学院			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング: BSM323029)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(授業の進め方について説明) 工事契約-講義	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	工事契約-講義の続き・問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	工事監理・施工業務・ -講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	工事監理・施工業務 -問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	防水・屋根工事-講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	工事監理・防水・屋根工事-問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	左官工事・タイル工事・張石工事-講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	塗装工事・建具・ガラス工事-講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	左官工事・タイル工事・張石工事・塗装工事・建具・ガラス工事-問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	内装工事・断熱工事・改修工事-講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	内装工事・断熱工事・改修工事-問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	設備工事-講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	その他(用語・機械・積算)-講義	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	設備工事・その他-問題・解説	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	模擬試験(90分)	今までの授業範囲の資料を予習する(90分)	模擬試験内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	今までの授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	空間計画論 (科目ナンバリング: APT324022)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築は、「ひとと建築をとりまく環境について多面的に学ぶ」ものであり、さまざまな空間要素によって構成されている。空間要素がもつ本来の役割とはどのようなものであるか、さらに空間要素が建築の中でどのように用いられているかを、各要素が特徴的に用いられている建築のモチーフに理解し、それを建築設計へと繋げられる能力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科DP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
空間要素の基本的な役割を理解し、用いられ方によって空間にどのような効果・影響を与えたかを理解する。具体的な事例との関連性を分析することで、自己の設計活動に活用できることを目的とする。

授業全体の内容と概要
空間要素の基本的な役割や事例の紹介を、図や写真を多用し解説する。授業後半には、各空間要素に関わる問題点・疑問点を提起し、これに対し具体事例をもとに各自の考え方を次回までにレポートにまとめる。

授業の方法
授業ではテキストのほかに、毎回配布する資料(テキストの内容を補充)を用いて授業を進める。授業出席を重視するため、原則として授業資料と事前学習・授業後レポート用紙は授業開始時のみ配布する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項
授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅列者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	15%	0%	0%	15%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築を構成する空間要素とは何を指すのか、その空間要素により創り出される建築の特徴にどのようなものがあるのかを事例をもとに知り理解する。	空間要素の特徴を理解でき、建築計画においてその考え方を援用することができた。	空間要素の特徴を理解でき、事例となる建築における役割を理解することができた。	空間要素の特徴を理解できた。	空間要素の特徴をおおむね理解できた。	空間要素の特徴を理解することができなかった。
建築士試験科目の「空間計画論」に対応する建築計画全般(住宅空間計画、都市空間計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。
建築のさまざまな空間言語を知り、その特徴が建築空間にどのように反映され、それによりどのような空間特性として表れているか、どのような役割があるのかを個々に理解する。	建築のさまざまな空間言語を積極的に理解し、建築空間特性との関係、建築空間での役割を実例とともに理解することができた。	建築の空間言語の基本的考え方を理解することができた。	建築の空間言語に対する興味を持つことができた。	建築の空間言語に対する興味をおおむね持つことができた。	建築の空間言語に対する興味を持つことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ヴィジュアル版建築入門5 建築の言語』	ヴィジュアル版建築入門編集委員会	彰国社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『20世紀建築の空間 空間計画学入門』	瀬尾文彰	彰国社			
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	空間計画論 (科目ナンバリング: APT324022)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業計画の説明)	シラバスの確認(90分)	教科書確認(90分)
2	床	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
3	柱	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
4	壁	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
5	窓	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
6	屋根	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
7	ピロティ	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
8	アトリウム	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
9	ヴォイド	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
10	軸線	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
11	ヴォリューム	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
12	立体格子	事前学習レポート(90分)	授業後レポート(90分)
13	近代建築空間解説1	資料確認(90分)	振り返り資料(90分)
14	近代建築空間解説2	資料確認(90分)	振り返り資料(90分)
15	近代建築空間解説3	資料確認(90分)	振り返り資料(90分)
16	総括(レポート提出状況と解説, 評価)	教科書確認(90分)	提出レポート見直し(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323032)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

日本の都市は遠か昔より火災との戦いであった。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが、これは今も同様で、都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を理解でき、都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基本建築関係法令集令和2年版法令編』	国土交通省住宅局建築指導課 / 編集 建築技術者試験研究会 / 編	井上書院	2019	9784753021529	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323032)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。建築設備等1	建築法規 の振り返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築設備等2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	構造計算1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	構造計算2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	防火区画・防火構造1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	防火区画・防火構造2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	防火区画・防火構造3	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	避難施設等1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	避難施設等2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	内装制限1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	内装制限2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	雑則・その他2	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振り返り(90分)
16	理解度診断試験(60分)・試験解説(30分)	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323033)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>広範な建築関係法令の中で、建築基準法を取り巻き「建築行政」を構成する各法律がどのような役割を持ち、社会の中でどう機能し、運営されているのかを認識する。そして建築関係法令のうち都市整備の基幹である都市計画法、何かと話題で今後も改正が予想される建築士法、ユニバーサルデザイン・バリアフリーの観点からの新ハードビル法、都市防災の要である消防法他、関係法令を実務的視点も含めて理解する。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>都市計画法の建築基準法に關する規定や、建築士法および建設業法の建築基準法に關する規定、その他の建築関連法規に關する規定を理解することができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。</p>

授業の方法
<p>授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。</p>

資格指定科目
<p>「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	80%	0%	0%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
80%	0%	0%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市計画法の建築基準法に關する規定の理解</td> <td>都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を正確に理解することができた。</td> <td>都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を8割方正確に理解することができた。</td> <td>都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を6割方正確に理解することができた。</td> <td>都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができた。</td> <td>都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定の理解</td> <td>建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を正確に理解することができた。</td> <td>建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を8割方正確に理解することができた。</td> <td>建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を6割方正確に理解することができた。</td> <td>建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができた。</td> <td>建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>その他の建築関連法規の理解</td> <td>その他の建築関連法規に關する規定を正確に理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に關する規定を8割方正確に理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に關する規定を6割方正確に理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に關する規定を理解できた。</td> <td>その他の建築関連法規に關する規定を理解できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	都市計画法の建築基準法に關する規定の理解	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を8割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を6割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができなかった。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定の理解	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を8割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を6割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができなかった。	その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に關する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
都市計画法の建築基準法に關する規定の理解	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を8割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を6割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができなかった。																								
建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定の理解	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を8割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を6割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができなかった。																								
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に關する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『基本建築関係法令集令和2年版法令編』</td> <td>国土交通省住宅局建築指導課/編集 建築技術者試験研究会/編</td> <td>井上書院</td> <td>2019</td> <td>9784753021529</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『基本建築関係法令集令和2年版法令編』	国土交通省住宅局建築指導課/編集 建築技術者試験研究会/編	井上書院	2019	9784753021529		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『基本建築関係法令集令和2年版法令編』	国土交通省住宅局建築指導課/編集 建築技術者試験研究会/編	井上書院	2019	9784753021529																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323033)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。都市計画法1-建築基準法と都市計画法	建築法規 の振り返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市計画法2-都市形成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	都市計画法3-開発	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	都市計画法4-地域・区域	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	都市計画法5-都市の構成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築士法1-建築士の役割	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築士法2-業務と倫理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建設業法1-施工管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建設業法2-生産管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	新ハートビル法-やさしいまちづくり	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	消防法1-消防設備	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	消防法2-防災計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	品確法・耐震改修法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	都市再開発法・その他	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	民法-建築関係抜粋	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振り返り(90分)
16	理解度診断試験(60分)・試験解説(30分)	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 (科目ナンバリング: APT324041)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築技術者の倫理に関する基本的な概念を広く理解し、技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について紹介事例(ケーススタディ)をもとに確認するとともに、その知識修得にあたりグループ討論での意見交換をもとに状況判断・行動へ展開する力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科DP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
このプログラムをもとに建築技術者としての判断力の基礎となる知識を身に付けるとともに、そのもととなる人間としてのモラルを醸成させ、技術者としてのモラルまで発展させることを養う。そこから技術者としてより上位の判断力、対応能力に結び付けていくための契機とすることを旨とする。

授業全体の内容と概要
前半は教科書を使った講義形式で進め、後半は建築技術者としての倫理観養成のために、公開されているWEBラーニングプログラムを使用した授業とその振り返りを兼ねたグループごとの討議をおこなう。

授業の方法
講義形式は教科書を主体に、技術者の職能に係る事例をもとにグループ討議をおこなう。意見交換からはじめ、討議へ発展させることでさまざまな価値観をもった人の中で技術者として倫理観にもとづいた判断が求められるかのトレーニングをおこなう。グループ討議の後、内容について講評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各自の事例の検証とグループ討議はワンセットのプログラムであるため、どちらかを欠席した場合は、重要事項に関わる内容が欠落し学習成果に結びつかないことになる。従って欠席・遅刻の内容に心がけること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内容を振り返る復習レポート(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	0%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術者が遭遇する事例の検証をおこなうことから、将来建築技術者として同様な場面に遭遇した際に求められる倫理的な判断力となる基礎的知識を修得する。	事例検証から、最善の判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、より良い判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点にはほぼ近い判断する力を修得することができた。	倫理的視点から判断する力を修得することができなかった。
人間としてのモラルを醸成させ、グループディスカッションを通じて技術者としてのモラルまで発展させる能力を修得する。	積極的にディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をおおむね伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をほぼ伝えることができる。	ディスカッションに参加しても自己の意思を伝えることができなかった。
建築技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について、紹介事例(ケーススタディ)をもとに理解する。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解し想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解しおおむね想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響をおおむね理解することができた。	紹介事例(ケーススタディ)をもとに理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築倫理用教材』	日本建築学会編	丸善			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 (科目ナンバリング: APT324041)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業ガイダンス シラバスの説明 授業の進め方と到達目標について	シラバスの事前確認(90分)	授業内容の確認(90分)
2	建築の職能 社会との関わり - 1	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
3	建築の職能 社会との関わり - 2	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
4	建築技術者の倫理 - 1	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
5	建築技術者の倫理 - 2	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
6	WEBラーニング #1	WEBラーニング受講方法の確認(90分)	復習レポート(90分)
7	WEBラーニング#1に対するグループ討論	前回の内容確認(90分)	討論結果のまとめ(90分)
8	WEBラーニング #2	WEBラーニング受講方法の確認(90分)	復習レポート(90分)
9	WEBラーニング#2に対するグループ討論	前回の内容確認(90分)	討論結果のまとめ(90分)
10	WEBラーニング #3	WEBラーニング受講方法の確認(90分)	復習レポート(90分)
11	WEBラーニング#3に対するグループ討論	前回の内容確認(90分)	討論結果のまとめ(90分)
12	建築技術者の倫理を探究 1	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
13	建築技術者の倫理を探究 2	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
14	建築技術者の倫理 - 3	該当単元の予習(90分)	復習レポート(90分)
15	建築技術者の倫理に対するグループ討論	前回の内容確認(90分)	討論結果のまとめ(90分)
16	総括(レポート提出状況と解説, 評価)	提出課題の確認(90分)	全体の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT323038)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	「CAD演習」を受けてWindowsの3次元CADの応用及びドローイングソフトの基礎を学ぶ。本科目習得者全員が単にCADを操作できるだけでなく、プレゼンテーションとして表現できるように学ぶ。
------	---

授業の位置づけ	建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	----------------------------

到達目標	3次元CADで、3次元作図とアニメーションの基本的な操作までできる。
------	------------------------------------

授業全体の内容と概要	テキストとHPによる解説により3次元CADの操作を学ぶ。3次元CADはCAD演習に引き続きVectorworksを使用する。
------------	--

授業の方法	授業は前半、テキストや資料を基に3次元CADの操作を修得し、後半は課題作品の制作に取り組む。最終日には作図した作品をプレゼンテーションする発表会形式で実施し意見交換を行う。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		

履修上の注意事項	USBメモリーは持参すること。
----------	-----------------

資格指定科目	「建築士試験受験資格課程」選択科目
--------	-------------------

評価方法・基準

評価前提条件	原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	80%	0%	20%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
Vectorworksの3次元機能を用いて表現ができる。	Vectorworksの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が完璧にできた。	Vectorworksの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が8割方できた。	Vectorworksの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現がほぼ6割方できた。	Vectorworksの3次元機能を用いて、3次元表現ができた。	Vectorworksの3次元機能を用いて、3次元表現ができなかった。
Vectorworksの3次元表現で相手に伝わるプレゼンテーションができる。	Vectorworksの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが完璧に作成できた。	Vectorworksの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが8割方作成できた。	Vectorworksの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションがほぼ6割方作成できた。	Vectorworksの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できた。	Vectorworksの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できなかった。
3次元CADと複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が完璧にできた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が8割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	「10日でマスター! VECTORWORKS (Ver. 2018/2017対応)」	山川佳伸	エクステレッジ	2018	9784767825199	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT323038)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。3次元CADの基本と柱状体,回転体	CAD演習 の振り(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	四角柱・多角柱から立体の生成	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	3Dモデルの移動,整列,回転	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	3Dモデルの複製,反転複写	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	3次元空間の把握	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	3次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	光源,ブーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	トータルな3次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	設計課題の提示	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	エスキスチェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	作図指導	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	3次元設計審査	プレゼンテーション準備(45分)	感想レポート提出(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	住空間計画 (科目ナンバリング: APT321045)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
住宅とは居住するものの生活を受け入れる器であるが、その間取りは居住者の生活のありさまを映し出すものである。授業では日本の近代住宅史において重要な位置付けとなる住宅を対象に、社会状況とともに間取りと生活との関係性を解説する。これを基礎に、多様化する社会においてこれからの住宅のあり方について考えるための基礎力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
社会・家族・生活という関係性を常に意識しながら間取りをもとに住宅の存在を考察する。価値観をはじめ家族形態がますます多様化する社会における住宅とは、住まいとはについて理解するために間取りを読み取ることができる。

授業全体の内容と概要
授業ではテキストに掲載されている資料の他に、映像資料も用いて解説をおこなうが、住宅を理解するための基本資料は間取り図(平面図)である。これらからどれだけの情報を汲み取るかが理解する上で重要であり、その内容を事前学習課題とする。授業での解説から、事前学習内容の再確認と理解度の確認をおこなう。

授業の方法
指定した教科書と配付資料をもとに授業を進めるが、間取りに関する詳細な解説のためには、テキストに記載されていない内容・画像・図面を用いておこなうため、それらの内容についてはメモをとる必要がある。事前学習課題は提出後、不備・誤りについてここに指導する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するため、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされる。事前学習課題は授業開始時に提出回収するため、遅刻した場合は課題提出できないこととなり、成績評価に影響することを留意すること。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、ただし毎回の授業内で行う発表や課題が単位認定(成績評価)の過半を占めるため、授業欠席は評価の低下または不合格に直結する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	30%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	30%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会・家族・生活という関係性のなかですまのあり方を間取りを通して理解する。</td> <td>間取りを通して生活と住まいのあり方を具体的に理解できた。</td> <td>間取りを通して生活のありかたを理解できた。</td> <td>間取りを理解することができた。</td> <td>おおむね間取りを理解することができた。</td> <td>間取りを理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>日本の近代住宅史において重要な位置付けとなる住宅から社会状況とともに間取りと生活との関係がどのように変化してきたかを理解する。</td> <td>当時の社会状況をふまえた上で、生活のあり方・家族のすがたをとらして住まい方がどのように間取りに影響を与えたかを理解することができた。</td> <td>当時の生活の状況と家族のすがたを想像でき、住まい方が間取りに与えた影響を理解することができた。</td> <td>当時の生活や家族をおおむね想像できた上で、間取りから理解することができた。</td> <td>生活の姿と間取りの関係を理解することができた。</td> <td>生活と間取りの関係を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>今後、家族形態がますます多様化する社会における住宅とは、という疑問を常に持ち続けるための意識構築をする。</td> <td>近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をもとに多様化する現代の住宅のあり方を理解することができた。</td> <td>近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をもとに今後住宅のあり方を想像できた。</td> <td>近代以降の住宅と生活スタイルとの関係を理解できた。</td> <td>近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をおおむね理解できた。</td> <td>現代の生活と住まいの関係を理解することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	社会・家族・生活という関係性のなかですまのあり方を間取りを通して理解する。	間取りを通して生活と住まいのあり方を具体的に理解できた。	間取りを通して生活のありかたを理解できた。	間取りを理解することができた。	おおむね間取りを理解することができた。	間取りを理解することができなかった。	日本の近代住宅史において重要な位置付けとなる住宅から社会状況とともに間取りと生活との関係がどのように変化してきたかを理解する。	当時の社会状況をふまえた上で、生活のあり方・家族のすがたをとらして住まい方がどのように間取りに影響を与えたかを理解することができた。	当時の生活の状況と家族のすがたを想像でき、住まい方が間取りに与えた影響を理解することができた。	当時の生活や家族をおおむね想像できた上で、間取りから理解することができた。	生活の姿と間取りの関係を理解することができた。	生活と間取りの関係を理解することができなかった。	今後、家族形態がますます多様化する社会における住宅とは、という疑問を常に持ち続けるための意識構築をする。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をもとに多様化する現代の住宅のあり方を理解することができた。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をもとに今後住宅のあり方を想像できた。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係を理解できた。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をおおむね理解できた。	現代の生活と住まいの関係を理解することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
社会・家族・生活という関係性のなかですまのあり方を間取りを通して理解する。	間取りを通して生活と住まいのあり方を具体的に理解できた。	間取りを通して生活のありかたを理解できた。	間取りを理解することができた。	おおむね間取りを理解することができた。	間取りを理解することができなかった。																								
日本の近代住宅史において重要な位置付けとなる住宅から社会状況とともに間取りと生活との関係がどのように変化してきたかを理解する。	当時の社会状況をふまえた上で、生活のあり方・家族のすがたをとらして住まい方がどのように間取りに影響を与えたかを理解することができた。	当時の生活の状況と家族のすがたを想像でき、住まい方が間取りに与えた影響を理解することができた。	当時の生活や家族をおおむね想像できた上で、間取りから理解することができた。	生活の姿と間取りの関係を理解することができた。	生活と間取りの関係を理解することができなかった。																								
今後、家族形態がますます多様化する社会における住宅とは、という疑問を常に持ち続けるための意識構築をする。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をもとに多様化する現代の住宅のあり方を理解することができた。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をもとに今後住宅のあり方を想像できた。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係を理解できた。	近代以降の住宅と生活スタイルとの関係をおおむね理解できた。	現代の生活と住まいの関係を理解することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『図解 日本の「間取り」』</td> <td>住友和子編集室</td> <td>建築資料研究社</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『図解 日本の「間取り」』	住友和子編集室	建築資料研究社				2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『図解 日本の「間取り」』	住友和子編集室	建築資料研究社																																							
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	住空間計画 (科目ナンバリング: APT321045)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業計画・評価方法の説明、「ライフスタイルと住宅」について解説	シラバスの事前確認(90分)	授業内容・日程確認(90分)
2	続き間	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
3	中廊下	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
4	文化住宅	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
5	お茶の水文化アパート	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
6	同潤会アパート	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
7	間取り研究#1	研究資料の予習(90分)	研究結果の確認(90分)
8	国民住宅	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
9	戦後の小住宅	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
10	公園住宅	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
11	間取り研究#2	研究資料の予習(90分)	研究結果の確認(90分)
12	マンション	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
13	商品化住宅	予習レポート(90分)	授業ノート見直し(90分)
14	間取り研究#3	研究資料の予習(90分)	研究結果の確認(90分)
15	間取り研究の振り返り	全研究結果の確認(90分)	返却資料確認(90分)
16	総評(レポート提出状況と解説・評価)	提出課題再確認(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導(A) (科目ナンバリング: ESS323055, SOE423072, SOE523083)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
学生が高等学校において職業教育を指導する立場の時、職業についての基礎知識・技能を重んじ、個性に応じた進路を選択させる能力を身につける。												
授業の位置づけ												
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標												
職業についての基礎知識・技能を重んじ、個性に応じた進路を選択させる能力を身につけることができる。												
授業全体の内容と概要												
職業の考え方、職業と社会、個人と職業、職業の選択、職業を生きる、進路指導、職業適性及び検査等について理解し、その指導法を学ぶ。												
授業の方法												
授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。また、課題の提出後講義中に解説を行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>〇 双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
積極的に教育に関心をもつこと。 授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。												
資格指定科目												
教職課程(工業)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
個性に応じた進路指導方法の修得	個性に応じた進路指導方法について完璧に理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解した。	個性に応じた進路指導方法についてほぼ理解した。	個性に応じた進路指導方法について大理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解しなかった。
職業の考え方や選び方についての理解	講義の内容から職業の考え方や選び方について完璧に理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方についてほぼ理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について大理解した。	職業の考え方や選び方について理解しなかった。
職業適性や検査法の理解	講義の内容から職業適性や検査法について完璧に理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について理解した。	講義の内容から職業適性や検査法についてほぼ理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について大理解した。	職業適性や検査法について理解しなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導(A) (科目ナンバリング: ESS323055, SOE423072, SOE523083)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	職業の意味1(労働分担の原理)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	職業の意味2(欲求の層構造)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	職業と社会	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	個人と職業	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	職業選択1(自己と職業のかかわり)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	職業選択2(レディネス)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	自己理解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	職業適性の概念	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	職業適性検査について	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	職業適性検査の実施1(筆記)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	職業適性検査の実施2(器具)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	職業適性検査の採点・評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	進路指導に関する活動1(位置づけ)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	進路指導に関する活動2(組織)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	最終回において解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD323054)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
建築の外構空間やアプローチ空間の再構成をテーマとした課題に取り組む。さらに、建築模型課題では外観から内部空間までを製作の対象とし、細かな材質感の表現のほかに、模型写真を用いたプレゼン表現や、建築透視図の表現力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科DP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
建築表現や模型の基本的な技術はすでに習得していることを前提として、道具・材料の選択から表現方法まで、模型による多様な表現能力の向上を、空間構成では製図ペンを用いた表現能力修得と透視図法法の理解することができる。

授業全体の内容と概要
建築模型課題については、作品完成後に模型と模型写真を用いたプレゼンテーションボードによる作品講評をおこなう。空間構成については、課題ごとに講評をおこなう。未完成の場合、次回の授業開始時まで完成させたもの限り受け付ける。

授業の方法
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

資格指定科目
教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	0%	15%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築表現や模型の基本的技術を習得していることを前提とし、道具・材料の選択から模型による多様な表現能力を修得する。	道具と材料の選択に対し最適な判断のうえで制作できた。	道具と材料の選択を自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をおおむね自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をし制作できた。	模型の製作することができなかった。
製図用インクペンをを用いた手書きでの空間構成の表現力と透視図法を修得する。	透視図法を完璧に理解した上での表現ができた。	透視図法を理解した上での表現ができた。	透視図法をおおむね理解した上での表現ができた。	透視図法で表現ができた。	透視図法が理解できなかった。
模型写真を用いデジタルツールによるプレゼン表現を修得する。	デジタルツールを完璧に使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使いこなした表現ができた。	デジタルツールをおおむね使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使った表現ができた。	デジタルツールが使いこなせなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD323054)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	建築模型1(課題及び材料の説明)	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	建築模型制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	プレゼンテーション(建築模型写真)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(建築模型・建築模型写真)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振返り(45分)
6	空間構成1(階段)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	空間構成2(アプローチ)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(階段・アプローチ)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振返り(45分)
9	空間構成3(アプローチと外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	空間構成4(空間の展開)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	講評会(アプローチと外観・空間の展開)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振返り(45分)
12	建築パース1(外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	建築パース2(内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	建築パース3(彩色)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(建築パース)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振返り(45分)
16	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(45分)	総評の振返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323073)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標						
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323073)			
授業担当者(所属・職名)			研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323074)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323074)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324019)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)	研究室所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築設計演習を通して、二級建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要
建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。

授業の方法
授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数10回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>一・二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。</td> <td>設計課題をすべて理解した上で、不備のないエスキスや平面プランを構築できた。</td> <td>設計課題をすべて理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。</td> <td>設計課題をおおむね理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。</td> <td>設計課題をある程度理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。</td> <td>設計課題の内容を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。</td> <td>与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。</td> <td>与条件を満足させる適切な表現ができた。</td> <td>与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。</td> <td>与条件をおおむね満足させる表現ができた。</td> <td>与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>限られた時間内に図面を完成させることができる。</td> <td>時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができる。</td> <td>時間内に書き上げることができた。</td> <td>時間内におおむね書き上げることができた。</td> <td>時間内にほぼ書き上げることができた。</td> <td>時間内に完成することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	一・二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で、不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。	設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。	限られた時間内に図面を完成させることができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができる。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
一・二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で、不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上で、エスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。																								
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。																								
限られた時間内に図面を完成させることができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができる。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324019)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・助教)		研究室所在	2号館6階	
単位数	2	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの確認。授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324020)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階 2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	卒業後、受験可能となる二級建築士の製図試験対策を目的とした演習を習得することで、合格に到達する能力を修得する。
------	---

授業の位置づけ	建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に該当する。
---------	----------------------------

到達目標	二級建築士製図試験と同等の内容を網羅した課題の理解と作図能力の取得。
------	------------------------------------

授業全体の内容と概要	建築士製図試験対策として、試験用製図方法についての説明と実践、過去問題を利用し出題方法と出題内容、設定条件の読み取りと法的解釈と回答などについて段階を踏んで進める。
------------	--

授業の方法	製図方法、問題の解釈等の解説の後、各自エスキスから作図まで独力で図面の完成を目指すための個人指導をおこなう。図面提出後、図面チェックの後、不備・誤り等について個別指導をおこなう。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	とにかく「書く、描く、画く」ことが合格への近道。
----------	--------------------------

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数10回以上)、積極的に課題に取り組むこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築士製図試験と同等の内容を網羅した課題の理解と作図能力を修得する。	課題内容をすべて理解した上での不備のない作図ができた。	課題内容をすべて理解した上で作図ができた。	課題内容をおおむね理解した上で作図ができた。	課題内容をほぼ理解した上で作図ができた。	課題の内容を理解することができなかった。
設計と条件に対する適切な解答としてのプランニング力を修得する。	与条件すべてを満足させる適切なプランニングができた。	与条件を満足させる適切なプランニングができた。	与条件をおおむね満足させる適切なプランニングができた。	与条件をほぼ満足させるプランニングができた。	予条件を理解することができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる図面作成能力を修得する。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324020)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階 2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業計画の説明 設計製図試験の特徴と目的	シラバスの事前確認(45分)	試験内容の確認(45分)
2	試験製図エスキスの基本	使用道具の確認と準備(45分)	エスキス図の振返り(45分)
3	木造専用住宅のエスキス法	使用道具の確認と準備(45分)	エスキス図の振返り(45分)
4	木造店舗併用住宅のエスキス法	使用道具の確認と準備(45分)	エスキス図の振返り(45分)
5	R C造店舗併用住宅のエスキス法	使用道具の確認と準備(45分)	エスキス図の振返り(45分)
6	試験製図の作図基本	配布資料の確認(45分)	作成図面の振返り(45分)
7	試験製図の作図法-平面図	使用道具の確認と準備(45分)	作成図面の振返り(45分)
8	試験製図の作図法-立面図・断面図	使用道具の確認と準備(45分)	作成図面の振返り(45分)
9	試験製図の作図法-矩計図	使用道具の確認と準備(45分)	作成図面の振返り(45分)
10	試験製図の作図法-伏図・仕上げ	提出作品の確認(45分)	作成図面の振返り(45分)
11	木造建築物の特徴	配布資料の確認(45分)	授業の振返り(45分)
12	R C造の特徴	R C造の復習(教科書)(45分)	R C造の復習(構造設計)(45分)
13	過去の出題例-木造専用住宅	過去問題の事前確認(45分)	回答例の見直し(45分)
14	過去の出題例-木造店舗併用住宅	過去問題の事前確認(45分)	回答例の見直し(45分)
15	過去の出題例-R C造店舗併用住宅	過去問題の事前確認(45分)	回答例の見直し(45分)
16	総括(課題別講評と自己評価)	制作作品の確認(45分)	講評結果の確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN323024)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

概要

履修目標
建築設備で学んだことを応用し、公共施設や店舗などの規模の設備の計画・作図を学ぶ。利用者や、施工する立場になって、動線を考えた計画、その作図を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
大規模建築で必要とされる設備の計画ができ、それを正確に図面で表すことができる。

授業全体の内容と概要
給水給湯設備・衛生排水設備・空調調設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、その設計手法を学ぶ。

授業の方法
授業では、板書やICTを活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行うことでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅よりも設備の種類や数が増す大規模建築において、設備の計画ができ、正確に図面表現ができるようになったか	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
管理者が管理しやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
利用者が使いやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がないか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『世界で一番やさしい建築設備』	山田 浩幸	エクスタレッジ	2013	9784767815480	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN323024)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任講師)	研究室所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方	シラバスを読んでおくこと(90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	給水設備・給湯設備とボイラー計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
3	給水設備・給湯設備とボイラー計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
4	給水設備・給湯設備とボイラー計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
5	衛生設備・排水設備と配管計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
6	衛生設備・排水設備と配管計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
7	衛生設備・排水設備と配管計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
8	空調調和・排煙設備とダクト計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
9	空調調和・排煙設備とダクト計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
10	空調調和・排煙設備とダクト計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
11	電気設備と冷暖房計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
12	電気設備と冷暖房計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
13	電気設備と冷暖房計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
14	照明設備と消火・防災設備計画(1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
15	照明設備と消火・防災設備計画(2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)
16	照明設備と消火・防災設備計画(3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する(90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング: BSM324030)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。		

概要

履修目標
建築積算は建築物を造るために必要な費用を算出し、かつ予測することにある。近年の建築をめぐる社会経済情勢の変化が激しい中、建築物のコスト管理はますます重要になっている。そこで国土交通大臣官房官庁管轄部監修の「建築数量積算基準」、「建築工事内訳書標準書式」に基づく積算数量の正確な計算方法を習得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(2)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り、建築生産の中で、数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに、建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。

授業全体の内容と概要
建築工事の各工法の理解度を高め、使用材料の数量積算を行う。現場で使われている道具、材料など細部にわたりプロジェクターなどにより説明を行う。建築産業を支える建築積算の意義と役割並びに建築工事費の構成を学ぶ。

授業の方法
テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また各单元ごとに演習課題出題し、提出してもらう。課題返却後、それを解説する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
講義にはテキスト、ノート、電卓は必ず持参し、講義内容と資料を整理すること。4回目以降は演習課題を実施し、課題提出の評価配分は高いので遅刻、欠席には注意すること。 30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。

資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
土工事・地業工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれではな	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
躯体工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
仕上げ工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基準にもとづく建築積算入門』	赤堀弘	彰国社	2009	978-4-395-00921-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築数量積算基準・同解説』	日本建築積算協会	建築コスト管理システム研究所	2003	4-8028-8979-8	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング: BSM324030)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 建築産業を支える建築積算の意義と役割	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	コストプランニング、コストコントロール、施工発注方式・請負契約	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
3	建築工事費の構成	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
4	積算数量: 設計数量, 所要数量, 計画数量	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
5	建築数量積算基準 1 土工・地盤の数量積算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
6	建築数量積算基準 2 躯体の定義と区分, 計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
7	建築数量積算基準 3 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
8	建築数量積算基準 4 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
9	建築数量積算基準 5 鉄筋の数量積	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
10	建築数量積算基準 6 鉄骨の数量積	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
11	建築数量積算基準 7 仕上げの定義と区分, 計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
12	建築数量積算基準 8 仕上げ各部分の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
13	市場単価と分掛り単価	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
14	科目別構成比と部分別構成比	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
15	事例分析: 部分別数量と躯体の数量分析	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 (科目ナンバリング: CIE323040)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)		研究室所在	アトリエ棟 1階	
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

概要

履修目標	古典的測量から現代の測量迄の建築測量関連としての教養的測量を修得し、建築に関する狭い範囲の測量のみならず測量を体系的に広がりを持った理解ができるようになる。
------	--

授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。
---------	----------------------------

到達目標	建築に必要な基本的測量知識の修得ができる。
------	-----------------------

授業全体の内容と概要	初めて測量学を学ぶことを前提にして、社会における測量の役割を理解し、実務に合わせた最新測量技術を用いた測量から地図の作成から建築工事測量までの基礎を講義する。
------------	---

授業の方法	授業は教科書とパワーポイント及び配布資料を中心に講義形式で行う。建築工事測量の演習も実施して理解を深める。フィードバックとして演習の解説を行う。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	関数電卓持参し数学が不得意の学生は基礎となる三角関数の復習に努めること。
----------	--------------------------------------

資格指定科目	教職課程(工業)選択科目, 建築士試験受験資格課程選択科目
--------	-------------------------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
測量全般の基礎理解	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得し、他の人に説明できた。	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得できた。	基本的な測量内容や用語について理解し、他人に説明できた。	基本的な測量内容や用語について理解できた。	基本的な測量内容や用語について理解できなかった。
測量機器全般の基礎理解	測量機器・器具の構造と使用方法を理解し、正確に操作でき、他の人に説明できた。	測量機器・器具の構造と使用方法を理解し、正確に操作できた。	測量機器・器具の構造と使用方法を理解し、説明できた。	測量機器・器具の構造と使用方法を理解できた。	測量機器・器具の構造と使用方法を理解できなかった。
測量データの理解	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができ、他の人に指導できた。	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができ、他人に説明できた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説わかる測量』	猪木幹雄・中田勝行・那須充	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 (科目ナンバリング: CIE323040)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 総論	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
2	測量に必要な基礎知識(国家基準点他)測量に必要な基礎数学	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
3	距離測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
4	角(度)測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
5	基準点測量 その1	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
6	基準点測量 その2	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
7	光波測距儀の原理	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
8	水準測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
9	平板測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
10	建築測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
11	応用測量(面積・曲線設置他)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
12	写真測量概論	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
13	GPS測量概論 その1	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
14	GPS測量概論 その2	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324075)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324075)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324076)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324076)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (隔週A) (科目ナンバリング: OEN323077)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

概要

履修目標
イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、ものの見方、考え方を養う。加えて、今後の授業及び将来の社会生活での問題の発見・解決に役立てることができる。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
イノベーションとデザインの理解を深め、併せてイノベーションとデザインの間も理解できる。デザインの理解を深め、併せてイノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解できる。

授業全体の内容と概要
イノベーションの重要性、必要性について、様々なイノベーションを例に講義する。イノベーションを創生するための資質、企業の風土などについて講義をする。広義のデザインの考え方を講義し、システムデザイン及びデザイン思考の重要性を理解する。具体例として鉄道のデザイン(車両・駅舎システムなど)について講義をする。

授業の方法
パワーポイント(資料は配布)及び黒板への板書を中心に講義を進める。各自はパワーポイントや板書への口述内容をノートに取る。提出されたレポートに対しては、講評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
時間厳守、筆記具(黒板、口述の内容を各自メモ)月1回程度の頻度で課題を報告

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。レポートや課題作品の提出を課す。出席(率)や受講する姿勢、授業態度等も評点に運動する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	20%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	20%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係が社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。</td> <td>イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。</td> <td>イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。</td> <td>イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。</td> <td>イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。</td> <td>イノベーション、デザインが理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。</td> <td>イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。</td> <td>イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。</td> <td>イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。</td> <td>デザインの思考を理解できた。</td> <td>デザインの思考を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てることができる。</td> <td>考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。</td> <td>ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。</td> <td>ものの見方、考え方が理解できた。</td> <td>ものの見方が理解できた。</td> <td>ものの見方が理解できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係が社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。	イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。	イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係が社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。																								
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。																								
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『イノベーションへの挑戦』</td> <td>柿沼博彦</td> <td>中西出版</td> <td>2015年</td> <td>4891153091</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (隔週A) (科目ナンバリング: 0EN323077)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦 (建築学科・客員教授)		研究室所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振り子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ・イノベーションとは何か、デザインとは何か。 その本質を知り、ものの方考え方を知る。	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
2	イノベーションとは何のこと	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
3	様々なイノベーション創生のプロセス	イノベーションとはどのように誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
4	イノベーションの特徴と共通性	イノベーションの特徴と共通性について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
5	何故、イノベーションが必要なのか	何故、イノベーションをやるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
6	イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む壁とは(組織の文化)	イノベーションに求められる資質、イノベーションを拒む壁について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
7	広義のデザインと重要なシステムデザイン ・デザインに求められる資質	広義のデザイン・システムデザインについて、デザインにはどのような資質が必要か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
8	デザインとデザイン思考について ・イノベーションに有効なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
9	システムデザインの視点からの鉄道 ・鉄道はシステムである。鉄道の特性(公共性・安全・サービス)	鉄道をシステムデザインすると、どのようになるか考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
10	鉄道のシステムデザイン ・鉄道のシステムデザインのいくつかの特性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
11	車両のシステムと形のデザイン ・計画から完成まで	車両システムのデザインのプロセスを考えてみること。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
12	駅舎のシステムのデザイン ・駅舎の変遷と機能(BF,UD) ・駅舎の機能3つのパターン	駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
13	駅舎のシステムのデザイン ・新千歳空港駅(デンマーク国鉄とのコラボ)のデザインワーク	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で見えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
14	駅舎のシステムのデザイン ・都市計画と駅舎のデザイン	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
15	全体まとめ イノベーションとデザインの共通性 ・矛盾と向き合う能力を磨く(知性の時代)	イノベーションとデザインについて講義を振り返り、整理をしておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
16	解説・フィードバック ・課題に対する解説とフィードバック	講義全体を通して質問事項があればまとめておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (隔週B) (科目ナンバリング: OEN323078)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

概要

履修目標	イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、ものの方、考え方を養う。加えて、今後の授業及び将来の社会生活での問題の発見・解決に役立てることができる。																								
授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。																								
到達目標	イノベーションとデザインの理解を深め、併せてイノベーションとデザインの間も理解できる。デザインの理解を深め、併せてイノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解できる。																								
授業全体の内容と概要	イノベーションの重要性、必要性について、様々なイノベーションを例に講義する。イノベーションを創生するための資質、企業の風土などについて講義をする。広義のデザインの考え方を講義し、システムデザイン及びデザイン思考の重要性を理解する。具体例として鉄道のデザイン(車両・駅舎システムなど)について講義をする。																								
授業の方法	パワーポイント(資料は配布)及び黒板への板書を中心に講義を進める。各自はパワーポイントや板書への口述内容をノートに取る。提出されたレポートに対しては、講評をおこなう。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	時間厳守、筆記具(黒板、口述の内容を各自メモ)月1回程度の頻度で課題を報告																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。レポートや課題作品の提出を課す。出席(率)や受講する姿勢、授業態度等も評点に運動する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係が社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの方、考え方が理解できた。	ものの方が見方が理解できた。	ものの方が見方が理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (隔週B) (科目ナンバリング: 0EN323078)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦 (建築学科・客員教授)		研究室所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振り子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ・イノベーションとは何か、デザインとは何か。 その本質を知り、もの見方考え方を知る。	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
2	イノベーションとは何のこと	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
3	様々なイノベーション創生のプロセス	イノベーションとはどのように誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
4	イノベーションの特徴と共通性	イノベーションの特徴と共通性について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
5	何故、イノベーションが必要なのか	何故、イノベーションをするのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
6	イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む壁とは(組織の文化)	イノベーションに求められる資質、イノベーションを拒む壁について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
7	広義のデザインと重要なシステムデザイン ・デザインに求められる資質	広義のデザイン・システムデザインについて、デザインにはどのような資質が必要か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
8	デザインとデザイン思考について ・イノベーションに有効なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
9	システムデザインの視点からの鉄道 ・鉄道はシステムである。鉄道の特性(公共性・安全・サービス)	鉄道をシステムデザインすると、どのようになるか考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
10	鉄道のシステムデザイン ・鉄道のシステムデザインのいくつかの特性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
11	車両のシステムと形のデザイン ・計画から完成まで	車両システムのデザインのプロセスを考えてみること。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
12	駅舎のシステムのデザイン ・駅舎の変遷と機能(BF,UD) ・駅舎の機能3つのパターン	駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
13	駅舎のシステムのデザイン ・新千歳空港駅(デンマーク国鉄とのコラボ)のデザインワーク	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で見えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
14	駅舎のシステムのデザイン ・都市計画と駅舎のデザイン	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
15	全体まとめ イノベーションとデザインの共通性 ・矛盾と向き合う能力を磨く(知性の時代)	イノベーションとデザインについて講義を振り返り、整理をしておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
16	解説・フィードバック ・課題に対する解説とフィードバック	講義全体を通して質問事項があればまとめておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員		研究室所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「建築研究」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を造ると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1)、(2)、(3)」、「2(1、2)」に対応する。

到達目標
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんだこと、その他の時間(夏季休暇等を含む)にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイド」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業15回のうち出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員		研究室所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
16	総括	授業振返り作成 (45分)	全体振返り (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333081)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員	研究室所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
「建築研究」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を造ると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP「1(1、2、3)」、「2(1、2)」に対応する。

到達目標
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間(夏季休暇等を含む)にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業15回のうち出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究テーマに関わる資料をもとに学習する。</td> <td>研究テーマについて積極的に個人で学習できた。</td> <td>研究テーマについて個人で学習できた。</td> <td>研究テーマについてほぼ個人で学習できた。</td> <td>研究テーマについておおむね個人で学習できた。</td> <td>研究テーマについて学習できなかった。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。</td> <td>学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。</td> <td>学習の進捗状況を説明できた。</td> <td>学習の進捗状況をほぼ説明できた。</td> <td>学習の進捗状況をおおむね説明できた。</td> <td>学習の進捗状況を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。</td> <td>計画・スケジュールを立案し、修正できた。</td> <td>計画・スケジュールを立案できた。</td> <td>計画・スケジュールをおおむね立案できた。</td> <td>計画・スケジュールをほぼ立案できた。</td> <td>計画・スケジュールを立案できなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。	研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。	研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案し、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。																																				
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。																																				
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案し、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員		研究室所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
16	総括	授業振返り作成 (45分)	全体振返り (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM333082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員	研究室所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	「建築研究」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。
------	---

授業の位置づけ	建築学科のDP「1(1、2、3)」、「2(1、2)」に対応する。
---------	----------------------------------

到達目標	多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとする ことができる。
------	--

授業全体の内容と概要	各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。
------------	----------------------------------

授業の方法	各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間(夏季休暇等を含む)にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイド」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。
----------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	授業15回のうち出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。	

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員		研究室所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
16	総括	授業振返り作成 (45分)	全体振返り (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334083)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員		研究室所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
 「建築研究」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。

授業の位置づけ
 建築学科DP「1(1、2、3)」、「2(1、2)」に該当する。

到達目標
 多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。

授業全体の内容と概要
 各ゼミナル担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法
 各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間(夏季休暇等を含む)にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
 各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
 授業15回のうち出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をまとめることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめた。	研究成果をまとめた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)	建築学科指導教員		研究室所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの確認	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振返り課題 (45分)
16	総括	授業振返り作成 (45分)	全体振返り (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標							
授業の位置づけ							
到達目標							
授業全体の内容と概要							
授業の方法							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項							
資格指定科目							

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	建築研究 (科目ナンバリング: SEM334084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)			
授業担当者(所属・職名)		研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)			
授業担当者(所属・職名)		研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			